

起 月 五 年 十 二 和 昭

誌 日 員 工 習 見 廠 工 軍 海 川 豐

組 班 五 年 級 学 三 第

室 七 寮 二 第

名 氏

夫 和 田 森

五月十六日 水曜日		象 氣 曇後晴		本日ノ実習 廠内実習 作業係の配置表を見て各班にはこうゆう仕事あるとおぼへる	
特 記		寮室代る 私は二寮七号室 もとの四号室 始めての 廠内実習		本日より中ほんとうの授業で、午後廠内へ実習でる。うれしい。企画員は何をす るであらうと思ひながら昼をまつ。甲班の奇数学級は、昼前は学科、昼 からは廠内実習。乙班は反対。私は機銃部庁舎である。いま主任が用事 があつて見へないから、各班の配置表を見て定時間で養成所へ帰る。庁 舎には二寮や中寮一寮等の室長さん達□おいでになる。	
本日ノ善行				帰舎し、副寮長、室長のもとに寮室がかはる。だが私は又二寮。室は本 の四号室である七号室。けっきよく私の室はもとと一つしよである。 室員は山梨の者、静岡の者、愛知の者。色々な県から集つて来たものばかり。 某の方がかへつて室長は小笠原班長である。	
本日ノ反省					
通		信		円	
信 発	信 受	出支ノ日本		戒 訓	

信 発 信 受 出支ノ日本 円 戒 訓		通 信		特 記		五月 十七 日 木 曜 日
		本日ノ反省 本日ノ善行		作業主任 久保純良 機銃部長 堀光一		象 気 曇後晴
		主事先生のあの注意を守ってしつかり実行する。		本日朝礼後、主事先生より注意ある。注意は、職員室へ用事があつて行く時に入口でかるくゑしやくをし、用事のある先生の三步前の所で用をたつし、すんで入口に行、まはれ右をし、かるくゑしやくをして帰る。二つ目の注意、授業が始つても各先生が用事があつておいでない時が多々あるから、もしおいでなかったら級長はすみやかに教務室へ報告に行け。主事先生の注意これだけ。歴史は中科目は十二題も一時間に一題づゝやる。物象は水についてやる。数学は代数。武道は指導員を木銃でつく練習。昼から廠内実習。機銃部作業係で主任代理の方に今後の注意をして下さつて、十七日より二十三日まで第一企画車の鈴木班長のもとで実習をする。作業係の内部をおしへてもらふ。主任は久保技術少佐。部長は堀海軍技術大佐であると知る。		本日ノ実習 廠内実習 作業係の内部をおしへてもらふ

五月十八日 金曜日		象 気	晴
本日ノ実習		本日ノ実習 廠内実習 辻田一等工員の本に品物を駄まで運搬	
特 記	出勤の時、当直副寮長より、お前達の廠内実習に行く態度が悪いと注意される。授業は、物象一の分子現象の中分子力、分子ノ集合状態、表面張力。数学、單項式ト單項式のやり方、單項式と多項式のやり方をやる。一番始めての材料、材料は何をする授業だと思ひながら、第九教室へ入ったが、先生がおいでにならなかったの、花井書記先生との話を聞く。次の時間もやはり先生がおいでにならないので、一時間目にやった物象をやる。昼からの廠内実習。昼食の途中にもう廠内実習。寄宿舎離しになつたのであはてる。作業係ノ辻田一等工員のもとに作業をする。		
夜間訓練			
本由ノ善術			
本日ノ反省	夜間訓練の時、終了後主事先生の公表によく出来たとほめられた。今後其の様にやる。		
通 信	信 受		
信 発	信 受		
出支ノ日本			
円			
訓 戒			
主事先生より、まだ職場をかへてくれといってくる者がいるが、そういう者はぜったいに受付んと話ある。山下兵曹より、本日二十時より四十五分間夜間訓練アル。主事先生より、おほめのことばいただく。(夜間訓練)			

信 発 信 受		通 信	五月 十九 日 土 曜 日		象 氣 曇後雨	本日ノ実習 廠内実習
			特 記	昨夜、空襲警報が発令になったので総員起しだが、寮長が室に入っていたいきせよといったので、寝具の中へ入ったら、しらずに寝てしまった。朝食後、第六期の見習工員寄宿舎舎生名簿を書く。本日は整備作業で、工務係の仕事をする。 だが、第三時、四時間目は材料学をする。器材部から山本中尉がおいでになっておしへてもらふ。工業材料の意義、工業材料、金属非金属、無機盾有機盾、各材料をやる。四時間の始に警戒警報が出、終り頃に空襲になり、食事をしようとしたら総員たいひになり、壕の中に入っていたら、ものすごい爆 半 だんの音がする。腹はぺこ〜。廠内実習の帰りには小雨が降り、いやな天気になった。 本日菓子の配給 中 ある。一人頭六十八銭。 本日不寝番。二直に立つ。		
本日ノ反省		本日ノ善行	行進の様子をほれられたが、まだ下手のところがあるからもうまくやる。			
出支ノ日本		円				
戒 訓		主事 或一般工員が、或学徒と今度の見習工の行進は非常にうまいと話していたと聞く				

五月 二十 日 日曜日			象 氣 雨後曇		本日ノ実習 身ノ回りの整理	
特 記 演芸会 (二寮誤楽室) 牧野君より 母校職員写真 をもって来て もらふ						
本日ノ善行 本日養成所の休日であり、実習に行。庁舎も休休日である。又或工場は休日でないから、実習に行く学級もある。私達は身の回りの整理をする。外出に行かない部屋長さんが、飲食物を食べてよいといったので、昨日配給あった菓子を食べたが、多たぐんさん食かべるとあまくなるので、小さくきって食べ、大豆の入っているかんの中へしまっておく。たまに出しては食べる。作業服と黒線の入ったシャツを洗ふ。朝の中雨が降っていたが、洗濯をする時分になると雨はやんだ。昼からも身の回りの整理である。工場の休の室長さん達は朝から外出。こちはくやしくなつて来た。家へ手紙を書く。岡崎遠州へも。夜、二寮中誤(誤)楽室で演芸会がある。						
別課は総員軍歌練習 明治天皇御製 ◎真心をこめてならひし業のみは 年をふれども忘れざりけり						
通 信						
信 発 信 受						
出支ノ日本 円						
戒 訓						
本日の反省						

五月二十一日		月曜日		象気曇		本日ノ実習 廠内実習 各係工場見学	
特記		本日より一週間、甲班奇数学級が昼前廠内実習、昼後座学とかはる。 昨日のんびりとした一日を送った。本日より気がひきしまったきもちで大いにか んばる。朝礼後、奇数学級は廠内にむかふ。第六男子寄宿舎の防空壕 を掘りに行。後、庁舎応接室で各自の自習をやる。 昼からの授業。教練、始めて小銃をもつての教練だ。なんだかうれしい。 立林上曹の指揮、二時間、いなへ銃、立て銃。三時間目は物象で、第一で あるがつがうで第二をやる。酸化作用、酸化、酸化物、酸化剤。今度は数 学、幾何学である。舟山教員より、幾何学はどうして出来上ったかをだいたくは しくおそはる。ギリシヤ人の苦勞ひと□う□でなし。 五寮の池田寮長が、召集でこの養成所を立っていかからるので、お送り する。					
池田寮長 出征							
本田ノ蕃衍							
本田ノ反省							
通		信					
信 発 森田周一郎様 森田もと 都築春二		信 受					
出支ノ日本		円					
戒訓							

五月 二十一日 火曜日		象 氣 曇		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		山下上曹より、廠内実習に行学級は、朝礼後右向け右をして出発していけといはれる。又朝の点呼の時、下中た箱の清とんを各寮しつかりやれ。			
各学級級長編 成式		実習は、第六男子寄宿舎の広場の防空壕を整理。午后授業。数			
塵紙 下太の尾 配給		学、多項式と多項式の公式問題をやる。途中工廠全般訓練空襲警報			
塵紙 十四銭 下太の尾 三十銭		で総員たいひ用意。二寮前のたいひ壕へ入る。物象二、漂白作用、山内先生。修			
全員 土肥寮長より 罰直受けうる		公、小倉先生に勉励と努力といふのをおそはる。第四時間目は武道であるけ			
本日ノ善行		れども、じんじよう調査をする。教務の方のさじづでやる。			
本日ノ反省		二寮号令台前で、一寮の土肥寮長より防空訓練の用具のおさめ方			
通		が、中そっせんしてやらないといって、かかとを上げ、ひさ中ばをまげ、約二十分			
信 発		足がぶるぐふるへ出して、まことにやり様がない。			
信 受		夜の点呼の時、副寮長より、お前達は二寮へ入って来た時と思ふと非常に			
信		はりきつてきたとほめられた。			
出支ノ日本		為すべきことは即日之を為せ			
円					
戒 訓		何も 清潔に			

五月		二十三日	水曜日	象 氣	晴	本日ノ実習 廠内実習 塵箱の整理
特 記		起床しても雨が降っている。人員調べも甲板でおこなはれた。食濯番だが、雨が降つて困る。おまけに下たの尾が切れて。朝礼は寄宿舎の甲板でおこなれた。実習に行。学級は二寮号令台前へ整列し、たゞちに出発した。本日の実習は、塵紙箱の整理。紙くづはオートバイ （邪魔） で利材の方へ運んだ。すんで、応接室で自習。昼後、身の回りの整理だと思ったら、整備作業。防空壕ほりだが、私達少数名はじやまだから汽灌場のたき物の整理で四時頃帰舎。私達の班長さんは本日工場休であるそうなので寮において。本日にかり腹がすき夕食まちどしい。食後、二寮号令台前で、二寮長以下総員軍歌練習だが、私は食濯番で遅れたのでホースの整理。				
配給品 リンゴ ニツ 石けん						
本田ノ善行						
本日ノ反省		何事も一生懸命なまけづに				
通		信				
信 発		信 受				
出支ノ日本		円				
戒 訓		為すべき事は 即日此れを為せ				

五月		二十四		日		木曜日		象 氣		晴		本日ノ実習	
特 記		実習する班が第一外注班に代る。		朝礼、十九日空襲に対し今後廠内実習に行 ^く 者は鉄かぶとを用意の事。		一、警報のさい指揮者の命令に従ふ事。一、空襲になつたら防空壕の中へタ		ンカをもつていく事。一、敵機頭上にある時はすばやくふせをする。本日朝礼		の時、主事先生 ^注 より注意ある。本日より、実習する班が第一外注班と代る。		技手に外注班はこうゆう ^(注) ふな事（廠内で出来ない各部分品を各民間の工場	
通		信 発		信 受		信		出支ノ日本		円		戒 訓	
本日ノ反省		本日ノ善行		外注班はどうゆう事をするのかといふ事をおぼへよう。		員のどうをつく。別課は防空壕の板を練兵場東側の所からはこぶ。		二をやる。一生懸命でやれば数学はおもしろい。今度は武道（石田先生）、指導		伝来、工芸。物象、 ^中 還元作用、還元、還元剤（山内先生）。数学（南先生）、公式		其の実習にかゝる。辻田一等工員のもと昼からの授業。歴史（小倉先生）、大陸文化の	
信 発		信 受		出支ノ日本		円		戒 訓		仕事さぼるな そつ先すいはん			

五月二十五日 金曜日		象 氣		本日ノ実習 廠内実習 北東門まで部分品を牛車ではこぶ	
特 記		明日給料支給するひかへ書をはたされる		朝点呼の時、当直副舎監より、お前達の集合状中たいは前の五期生よりもうまいと話があつた。廠内実習は、民間工場へ送る機銃の部分品を北東門まで牛車ではこぶ。帰りは牛車に乗ってきもちよし。十九日爆弾が落ちた銃架の組立工場の前を通過。非常にあはれなもの。太陽が竿をかぶつている。明日の天気はどうだらう。何といつても食事が一番よいなあー。昼からの授業、物象（山内先生）、比重。数学（南先生）、公式3。材料学は山本中尉がおいでにならなかつたので、哨所西側へ掘っておる防空壕は指導員の方とで掘る。帰舎し明日の給料を支給するチケットをはたされる。うれしい。自分で働いて始めての（大金五十一円二十銭）、明日いただけると思ふとなんだか嬉しいなー。	
本日ノ善行		明治天皇御製		物学ぶ道に立つ子よおこたり ず に	
本日ノ反省		まされる仇はなしとしらなむ			
通 信		信 信		出支ノ日本	
信 発		信 受		円	
戒 訓		頑張 抜け がんばりぬけ			

五月二十六日 土曜日		象 氣 曇後晴		本日ノ実習 廠内実習(昨日と同じ)	
特 記		始めての給料日 (五十一円二〇銭)			
通 信		信 受			
石田秀夫君		中沢芳次先生より			
出支ノ日本		円			
戒 訓		節約			
本田ノ善行		郵便をはたされたが、私のがなかったので力落ちた。巡検後、班長がきちよう品をおるし給料を入れる。全部で八十一円十八銭である。家からかりた四十五円を帰さうと思ふ。			
本田ノ反省					

五月 二十七日 日曜日			象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習（昨日と同じ）	
特 記		本日は第四十回の海軍記念日を向へた。記念式をすませ廠内実習に行。九時頃より工廠神社の例祭がある。実習も先日と同じ。食事は天長節の食事と同じせきはん。おまけに私は食卓番でいそぐ。おかずは玉ねぎ、非常にうまい。昼後の授業は水曜日の教科。第一、二時、教練、山下上曹の指揮。私は山下上曹は大すきだ。つけけん立てけんの時、「森田は非常にうまい、感心する、とほめ、 休けい 第三学級、非常にみこみがよくなった。又休けいの時間を長く、私達のためになる話をたくさんして下さった。物象、山内先生アルキメデスノ原理。幾何（主事）。朝礼台前へ整列したら立林上曹が、五時より養正講堂に教育映画あるゆへ掃除ははき掃除でよし。帰舎したぐちに食卓番で食堂に向ひ、食事をすませて大至急養成講堂に向ふ。帰舎し甲板掃除取りやめ、すぐ点呼をしてしゅう寝。本日巡検なし。				
回 十 四 国旗の絵		海軍記念日 特攻隊に 徹せよ  稲葉が自動車にはねられる 教育映画あり (五時より) (新雪)				
通		本日ノ善行 本日ノ反省 本日ノ反省				
信 発		信 受		出支ノ日本		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		
				円		

五月二十八日曜日		象気		本日ノ実習	
朝の空気を一杯すって点呼をすませ、今日大外の掃除に出る。くり上り総員起し少し前、早くも警戒警報が発令になり、大外の掃除の時Bのやうが一機□くらいに退走していくのを見る。昼前、整理作業。哨所東側の自転車小屋を整理。二校舎西側の塵箱整理。すんで昼まで休けい。昼食の大きい事。腹一ぱい。午後は廠内実習だ。第一外註班の倉庫の整理。帰って防空壕 ^⑤ にし ^⑥ 用せる木を練兵場東側からはこぶ。帰舎し温習の時、先日配給のあつた代金を出す。本日誤 ^⑦ 楽室で自習をしようと思ったら、又舍生名簿を書かねばならなかつたので取りやめ。夜中少し寒い様であつたが、もうふをひつかぶって寝た。		・二寮長 長谷川治也 副寮長 名倉次郎 甲板長 外筏武 松本秋一 後藤洋 今泉照		本日ノ反省	
もつと字をうまく書くこと(使)		本日ノ善行		本日より奇数学級午后廠内実習	
整理作業		先日記		先日記給品	
下駄の尾		菓子(七〇銭)		三十銭	
石けん		塵紙十四銭		リンゴ二円四十五銭	
代金を出す		本日ノ反省		本日ノ善行	
信 受		信 通		信 発	
出支ノ日本		配給品		円	
三六〇		三六〇		三六〇	
戒 訓		まじめで 働け 清潔		三六〇	

五月二十九日		火曜日		晴後曇雨		本日ノ実習	
特記		配給品 鼻紙 下駄		きもちのよい朝だ。何も食事は一番よい。ラツパの音高く養成所に向ふ。朝礼後、廠内へ行者は出発。私達は授業。数学、代数の公式問題（南先生）。物象（化学）、山内先生、木炭について、炭酸ガスの特長は石灰水を白濁する。修公（小倉先生）、先日勉励と努力のつゞき、明治天皇御製「歳月は射る矢のごとし、ものはみなすみやかにこそなすべかりけり。」武道は戸澤指導員のもとに直とつ、下とつ、立つとつ、こうさ、をおしへてもらふ。昼からの出勤の学級は昼の体操をぬきにしてたゞちに食事にかゝる。廠内へ行く時分に天氣が悪くなりだし、帰る時分には小雨が降り出した。本日鼻紙、下駄の配給ありうれいし。又入浴から帰って来たならなつかしい泰彦君の手紙がついていた。内に学校時代の友達、河合彰宏君の手紙が入っていた。誤楽室にも点呼後自習に行者が多いので、明日武内君と相談していくようにせる。			
通		信		円			
信 発		信 受		戒 訓			
森田周一郎様		森田泰彦□君 河合彰宏君より		部屋の整頓をよくしよう			
本田ノ反省		本田ノ善行		出支ノ日本			

五月 三十 日 水曜日		象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		本日の総員起し、少し早い様でまだ五時前であるが、二寮号令台の前へ整列したら一寮長室の辺には日が照っていた。朝礼の時、主事先生より今の戦況について、沖 (機) なはの大総攻撃、我神雷攻撃隊についてのふんとうを話し、本日総務部長並びに労務主任が私達の授業のしぶりを見にくるそうだ。一、二時間目教練（山下）。私は教練が一番すきでいつも山下上曹中中中中が、よくせつどが出来ているとほめられる。又三学級はみこみがよいので教練を早く終る。物理（山内先生）、圧力の伝来、圧力の強さ、2、パスカルの原理をやる。数学は代数（主事）、平行線について。廠内実習に行者は早めに工場をすませ、養成講堂で総務部長の話がある。見習工員のけつい、工廠は皆んのなかたにかゝっている。帰舎し食事。めしは多かった。誤 (誤) 楽室では寮長を始め大ぜいがピンポ中中をやっている。点呼後、竹内君と誤 (誤) 楽室で自習をやりに行く。東郷元帥死去			
本日ノ善行		本日 巡 検 な し 寄 宿 舎 警 戒 当 直 （八 直）			
本日ノ反省		山下上曹よりせつどよしといはれる。うれしい。何事もおもしろくなつてやりよい。			
通 信		信 受			
信 発 森田泰彦君 河合彰宏君		出支ノ日本			
		円			
		戒 訓			
		一億の心に生せよ 大東郷			

五月 三十一 日		木曜日		象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		四時から五時まで寄宿舎警戒当直に出る。総員起し、人員調べも事務室に入っており、甲板掃除になると、副寮長、寄宿舎寮長の食事を食堂へもちに行。本日食卓番であるがいそがしいので小松君に代ってもらい、食器を後洗に行。出勤の時、集合がおそかったので甲板長に寄宿舎を二回回らせられた。(罰直)全員。朝礼の時、主事先生から、昨日総務部長の話があつた様に、見習行員は豊川海軍工廠の中堅工員となるのであるからしっかりやれ。又授業行進間中はきみをしないと注意される。授業、歴史(小倉先生)、のんびりした話だったのでねむくなるよ。物象、炭素の種類。数学(南先生)、一般乗法をやる。武道は戸澤指導員と銃架のにおいてある所で休む。授業後、食卓番でいそぐ。本日実習する班が第二企画班に代る。第一外註よりよい。点呼後、せんべいの配給ある。					
配給品 せんべい 茶の葉		始めて カヤをつる					
本日の善行 本日の反省							
通		信					
信 発		信 受					
出支ノ日本		円					
戒 訓		授業行進間中 はきみをするな					

信 発		通	信	出支ノ日本	円	訓 戒	働く者の 姿は美しく	特 記	朝礼の時要言 をいふ (訓練の月)	六月 一 日 金 曜 日		象 気 曇	本日ノ実習 廠内実習
信 受													
六月一日であるから朝礼の時要げんをろうしようする。書き遅れたが昨日かやをつつたので、総員起し十五分前に起きてたゝむ。授業、物理、大気に関する現象をやる（山内先生）。数学（南先生）、除法をやる。指数法則、単項式単項式・多項式単項式。材料（山本中尉）、第四時間、五時間目である。金属材料、合金、金属材料、知得上必要ナル元素名、合金の例、鉄鋼ノ部、銅合金ノ部、金属材料ノ組織検査法、方法、色々な事をおぼへる。時間は少し早いが多分ぐらい早くすむ。途中警報が出たがすぐに解除になる。廠内へ実習に行。中太陽がじりぐと照りつけ熱くてしかたなし。企画班へいって色々な事をおぼへたり、班長のいふ事をやりしていたら、職手の方がノートを作れといって紙をもつて来てくださったのでノートを作る。今日は帰りは中おそかった。別課は軍歌練習。													

六月 二 日 土 曜 日			象 氣		本日ノ実習	
			雨後曇		廠内実習	
特 記			此頃なんだかかゆくてねむれない。おまけにかやをつて (マ) いるから熱い。だがよく寝れた。十五分前をしらないぐらい。雨はしとくと降っている。朝礼は寄宿舍でやり、少し立 (立) って養成所へ出発。雨が降っているのとんでいく。服が少しぬれる。ついたらすぐ授業開始。物象（化学）（山内先生）。燃焼、発火点、炎。今度は、始めてやる工場要項（神谷先生）、我等工員の使命をやる。始 (初) めてであるので、此の時間はどうゆうものをするかを話された。修公、先の次 (後) き、勉励と努力、次の節制。教学は先生がおいでなので自習。小降の中をとんで寄宿舍に食事に向ふ。実習出勤の時、雨が降り始めたのでかうもり傘をもつていったがさゝづに中 (中) いったので、くたぶれもうけ。実習を三時半に終りて帰校し、当直の方が寄宿舍に帰れといったので帰る。			
配給品代金出 下駄 せんべい 二十銭 茶 八銭						
本田ノ善術			ふ。			
本田ノ反省			を家にもちに行に外出を許スといったが、家にはないので他人とかはってもらふ。			
通			配給品の代金を出す。二円二十八銭。点呼後、班長が、森田新城だからいものつる			
信 発			を家にもちに行に外出を許スといったが、家にはないので他人とかはってもらふ。			
信 受			配給品			
信			二 円 二十八			
出支ノ日本			配給品			
			二 円 二十八			
戒 訓			決戦最終段階に入る 一億特攻隊で挺身せよ			

信 発		通		本日ノ反省		本日ノ善行		特 記		六月 三日 日曜日		象 氣		本日ノ実習									
信 受		信		母の手紙		母の手紙を見てよくがん張り抜け		今日はなんだか寝れなかった。今日外出の者はうれしい様である。正服に着かへ朝礼前に出発した。又新城の伊藤君、二回も外出で家に帰る。昨日の話では十日に自由外出があるといっているが、其の時に帰らうと思ふ。代数の復習をやったり、予習をしたり。洗濯、パンツはいているとかゆいので洗ふ。又三寮西側からなはをひろって来て、朝晩甲板掃除につかふ。マツトを作ったりして昼前を終る。昼食中に豆粕ととうもらこしが中へ入ったので、食事 (ミヅ) も早く食べられない。良くかんで食べると、あま味が出て来るのでうまい。今のおかずは菜ば一つか。時期のやさいはしかたない。だがうまい。昼後、班長が今日は日曜だから部屋でねころんでもよいといったので、寝ころんだり裁縫したりしている。昨日牧野君に中たのんだのをもって来てくれた。お母さんの手紙を見ると眼がうるんてくる。		母の手紙を見てよくがん張り抜け		母の手紙を見てよくがん張り抜け		母の手紙を見てよくがん張り抜け		母の手紙を見てよくがん張り抜け		母の手紙を見てよくがん張り抜け		母の手紙を見てよくがん張り抜け		母の手紙を見てよくがん張り抜け	
出支ノ日本		円		円		円		円		円		円		円									
戒 訓		身の回りをよく整頓せよ		身の回りをよく整頓せよ		身の回りをよく整頓せよ		身の回りをよく整頓せよ		身の回りをよく整頓せよ		身の回りをよく整頓せよ		身の回りをよく整頓せよ									

六月 四 日 月 曜 日			象 氣		晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		日誌ヲ学級主任ニ出ス						
通		信 発						
信		信 受						
出支ノ日本		円						
戒 訓		本田ノ反省						
本田ノ善行		総員起し十五分前がみぢかつた。かや、寝具をすばやくたゝみ、人員調べに大急きで出る。当直副舎監より、便所の暗幕の使用法と机の並ひ方、空襲の時いつ外へ急いて出る事があるから、まどの方へ机へをおかずにかべのついた方へ並べる様に整頓せよ。朝礼の時、山内先生が機銃部の二機の者で第三、四、五分工場の者は本工場へ行。其の者達は靴がへらんでよいと嬉んでいる。本日甲班は昼前は廠内実習。昼後教練。小銃をもつてのおりしけふせといふ様な新しい科目をやる。休みの時間の時、鉛筆（配給の）が落ちていたが主かなかつたので渡边上曹が森田にやると下さる。物象、一、大氣に關スル現象ノ一部分をやり、四時間目の数学（幾何）の時間は先生がおいでなかつたので物象、大氣に關スル現象、圧力ト体積。集合の時、どうさがかんまんであつたので、渡边上曹より養成所大外を一週全員罰直うけらる。						

六月五日		火曜日		象 氣		晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		朝礼の時、主事先生より先日総務部長がおいになった理由をいはれる。其れは本年度の見習工は（六期生）非常に ^{（脇見）} はきみをするのが多いと総務部長が工廠長にいはれたので、其れをなほしに、又養成所の風紀をござらんになり、午后講堂（養正 ^{（成）} ）話があつたが、それはお前達を励ましてよい見習工員にしようと思つて話したのであるから、皆んなの先輩をけがさない様に務めよ。実習に行。学級はすぐ出発。少し時間が遅れたのでかけ足。電動車で工具をもちに工具工場に行く。昼の時、教務の方 ^中 が配給の何やらで用紙に色々な事を書 ^中 けといった。代数、多項式、多項式、面白い。物象（化学）、燃料について修公は先生がおいでないので自習。武道、石田先生、直とつの練習。帰舎する時分になるといつも青年科が訓練に来てゐる。夕食事がすんで入浴であせを流し、二寮号令台前で号令練習。注意に、寮長がお前達の廠内実習のたいどが悪い。各部長会議の時本年（六期）の見習工はたいどが悪いといふひょうばんだ。皆もそんなことはいは ^{（む）} はれないでしつかりやつてもらひたい。							
本日ノ反省		本年（六期）度の見習工はたいどが悪いひょうばんだから、そんなことはいはれないでしつかりやる。							
本日の善行									
通		信							
信 発 森田ゆき 森田武		信 受		出支ノ日本		円		戒 訓	
								たいどをしつかりと	

信 発		通	本日ノ反省	本日ノ善行	不寝番 一直	特 記	六 月	六 日	水 曜 日	象 氣	晴	本日ノ実習 廠内実習
信 受 鈴木守君より							信					
出支ノ日本			円	戒 訓	最後 までしっかりと	西の海 寄せ来る波も 心せよ 神の守れる 大和島根ぞ (中臣祐春)	廠内実習の班、第二企画班が今日で最後の実習である。だから用具一覧表をもつて用具倉庫へ実物を見学。色々の用具の名称をおぼへる。帰校してもまだ授業は終ってはいなかった。元気な工廠体操をする。私は身を錬る為には体操が一番すき。たのしい。食事、めしの中にもろこし、大豆が入り出した。なんだから早く食べれない。昼後教練。渡辺上曹でふせおりしけの(小銃)の復習。林の影で練習し(全員四名づつ)休けい。物象(物理)、圧力ト体積ノ関係(ボイルノ法則)、幾何(主事)、楕円形の書方をやる。なんだか面白くて。すんで朝礼台前へ整列し各部掃除。一校舎西側玄関をそうじ。班長本日から夜勤。昼、帰舎後、毛風(市)にのみが多いので消毒。本日寝るのは八時半である(消点 ^市)。不寝番は三十分中間やったきり。弟の学友の鈴木守君の手紙つく。					

六月 七日 木曜日		象 氣		本日ノ実習	
雨後晴		廠内実習			
特 記		総員起し二十分前、起きて当直班長が総員起しまでの、みを取れといったので取る。空はくもっている。いまにも雨が降りそうだ。人員調べも甲板ですませる。今は風が強い。 廠内実習 ^中 の第二企画班が第二外註に代る。 係の人が ^{（投 射）} とうしや板をつてくれといったのです。銃架の辺までくると警戒警報が発令になり、一銃の辺まで来ると、にはか ^⑤ 雨が降り出したので養成所までかけあし。 工廠正門の所へくると新城警察の次せきの人と監視哨の副哨長、森田先生が二人かっぱを着てお帰りになる。 昼食事がすむと雨は大雨となり、部屋の北側のかべの辺から雨がもつて来たので畳を上げる。ごみ中に針が一本おちていた。食卓番もかはい ^⑥ そうにびしよぬれ。 午後、廠内実習に行ものはかはい ^⑤ そうに。私達は整備作業であつたが、雨がふつたので取り止め。授業、修公、大化の改新とその精神。化学、分子、原子。代数は方程式をやる。武道は止め、自習。 夕食時の頃になったら雨はやんで青 ^{（晴）} 天になる。入浴は二寮一番。 点呼後、糸の配給あり。			
本日ノ善行					
本日ノ反省					
通		信			
信 発		信 受			
河合祥治君より		出支ノ日本			
		献金			
		円			
		十銭			
戒 訓		今日の健康を感謝			

六月 八 日 金曜日			象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記						
大詔奉戴日 国旗の絵 廠長の訓辞 見習工のだらけて いること。 夜間訓練 (八時・・・八時半) 副寮長より 廠長の話で 罰直						
本日ノ善行						
本日ノ反省						
廠長のあの訓辞を聞。だらけづにもつとひきしまったきもちでやるようにいまからする はさみ防毒面を両手上に上げ、罰直だ。 しようがないと前さへ底空飛行を十五分間やらされ、升帽を ^(お) またに 勤の帳簿を新学級順にする。本日の夜間防空訓練の立つけ点呼後、寮長が 生のもとに物象の図を書く。第三、四時は材料。帰る時、朝礼台の前で出勤欠 本日の廠長の訓辞を聞いたか、おれ達が一生懸命やつてもお前達がだらければ よくなくなっている。」といふ様な・・・。又学徒をしかった話。今の訓話は工廠長の おこり話。実習に行。二外註はどうゆう仕事をしているかを ^(教) をしへてもらふ。 昼食事の中に(めし)しようががきぎんで入っていた。午后整理作業。山内先 生のもとに物象の図を書く。第三、四時は材料。帰る時、朝礼台の前で出勤欠 勤の帳簿を新学級順にする。本日の夜間防空訓練の立つけ点呼後、寮長が 本日の廠長の訓辞を聞いたか、おれ達が一生懸命やつてもお前達がだらければ しようがないと前さへ底空飛行を十五分間やらされ、升帽を ^(お) またに はさみ防毒面を両手上に上げ、罰直だ。						
通		信				
信 発		信 受				
出支ノ日本						
円						
戒 訓						
質実剛健						

六月 九 日 土曜日		象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		此頃はよく寝れる。甲板をはきに出たら甲板用具係が良いほうきと取りかへてもらふ。廠内実習、八時半頃空襲になり少したったら解除になる。又空襲警報。女子低学年学徒は、いやだ又かといつてたいひに出て行。帰舎し元氣一杯体操をし、食事に向ふ。今日の空襲の多い事。食事中も警戒警報がで出勤の頃に空襲になり総員たいひ。廠内実習に行つた者は途中から帰つて来た様だ。たいひしたので授業一時間立つ。工場要項、海軍工廠令、修公、節制について、クリーブランドの事、仏典、節制と理想。数学は各自が自習する。帰舎し明日の補欠日課は水曜日の授業。班長の指揮で大掃除。毛風 （毛） のみをおとし畳を上げて塵を取る。すんでずぼんを見たらのみが多数中 （中） くつついていた。入浴の時、後藤節甲板、外筏甲板のかたを洗し副寮長のも洗ひ、そしたら副寮長はきれい （好） づきだからきたない者に洗ってもらひたかないといつて笑す。			
本日ノ善行					
本日ノ反省					
通		信			
信 発 鈴木守 河合祥治 君		信 受			
出支ノ日本		円			
戒 訓		習慣は 第二ノ天性			

信 発 信 受		通 信		出支ノ日本 円		戒 訓 習 性トナル	
本日ノ反省		本日ノ善行		特 記 時の記念日 養正講堂 養正講堂 において映画 見学 天晴レ「一新太助。」 面白かった。 時計の絵		六月 十日 日曜日 象 気 晴 本日ノ実習 廠内実習	
人員調べの時、当直副舎監より、お前達の集合状態は満点である。しかし先日廠長より工員全員の前であんなはじをかけた。それはどうゆう事だらう。それはきつと実習に行ときぶんがみだれると思ふ。寮にいれば寮班長がやかましくゆうから一生懸命やる。そんな気ではない。勉強はお前たちの戦争だ。しつかりやれ。」とほめ、又注意された。掃除は養成所教室の掃除に行。 今日度も度々警報が出る。実習に行前に総員たいひになったので、養成所のたいひ壕へ入る。実習していたら山内先生と〇〇先生がおみへになった。色々な仕事を佐々木女工員におしへてもらふ。実さいにやってみるとなにも面白い。 授業、教練、練兵場で七学級と中隊、縦隊、平立縦隊、縦隊。物理（化学、酸、塩基）をやる。幾何、双曲線。本日養正講堂で映画があるので掃除も十五分間。帰舎し大至急食事をすませ、十七時十分寄宿舎離レ。映画は天晴レ一新太助。エノケン中面白い。一日の生活をおちつける。帰舎して時間は甲板掃除まで二十分しかないので自由温習。							

六月			十一			日			月			曜			日			象			氣			晴			本日ノ実習			廠内実習		
特記			今頃は教練等でくたぶれる性かよく寝れる。養成所へくる行進は下手だ。皆んな大部分下をむいて行進していると○○先生より注意され、主事より廠内へ行っても一人がかつてにこうどうを取るな、非常にみつともないから、と又注意される。本日より甲班は昼前授業である。在郷軍人の方々が教練に養成所へおいでになる。教練立林教員より射撃の事、立打、逆打、膝打、伏打、しばらくられた。悪い者はかけあし。途中在郷軍人の方が銃がいるそうなのでかしてあげる。数学、幾何、主事先生がいそがしいので十三学級と合同して○○先生におそはる。物理。食事をすませ廠内実習に向ふ。電動車できりこをそく線まで一具からはこび、二時半までやり、ニ外註の佐々木女工員の仕事を少しやって帰校。大外の掃除に農園の草取。別課、軍歌に教練をやる。点呼後、金澤君と誤樂室で頭をか																													
本日ノ反省			る。バリカンをかりるに一苦勞。寝たのが十時。夜中に空襲警報発令になり総員たいひ。																													
本日ノ善行																																
通																																
信 發																																
信 受																																
出支ノ日本																																
円																																
戒 訓			行進中に下をむくな																													

信 発 信 受		通		信		本日ノ反省		本日ノ善行		特 記 入梅	六 月 十二 日 火 曜 日	象 氣 雨	本日ノ実習 廠内実習											
		昨日ほうそうのあった通りの日課をするのだが、雨が降ったので取りやめ。日課は総員起し、人員調べがすんですぐ食卓番開け、食事をすませて甲板掃除。食事がすんだすぐたので掃除もやりにくい。本日天気がよければ寝具を消毒しに浴場へもっていくのだが中止。朝礼は寄宿舎ですませ、小雨の中を各自養成所へ出発。数学、高二・一で習った一元一次方程式をやる。荒木がいねむりしていたので静座させられる。化学、中和に塩。中和の時、式が出来ない者は頭をもくねじの木で二つなぐられた。私は出来たのでよい。修公は小倉先生が休んだので花井書記の話。生活についてきついがなれたか、実習に行って偉いか、なれたか、外出も外泊もなくきついと思ふががんばってやれ。廠内へ行く途中、哨所の所へいったら家から持参した下駄が両方うん悪くされたので、線路のかげにかくしておいてはだしでいく。帰って配給のはな尾を上げる。十二号は医務から寝具消毒に来ていた。くさくてしかたない。今日はたるくてしかたがない。雨が降るから。																						
出支ノ日本 <table border="1"> <tr> <td>糸</td> <td>六〇</td> <td>一 円</td> <td>二</td> <td>一</td> <td>?</td> </tr> <tr> <td>ハリ(五本)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						糸	六〇	一 円	二	一	?	ハリ(五本)						戒 訓 授業中に寝るな						
糸	六〇	一 円	二	一	?																			
ハリ(五本)																								

六月十三日		水曜日		象 氣		曇		本日ノ実習	
廠内実習									
特記		今日も天気が悪そうだ。昨日の雨で外は湖のようになっていたので、甲板で人員調べ。授業、物理、先生が用事があるので自習。代数の一次方程式ヲよくやれる様練習。幾何、双曲線。先日やったのでたやすくかける。十教室で九学級と合同でやる。此れから幾何は合同で勉強するのだ。本日だけ教練は三、四時間目にやると教務の方でしじがあつた。教練は教室で山下教員より海軍知識をおそはる。階級、礼義、須知、軍港、軍艦、警備府、軍機保護法、其ノ他。三時間目終つて休けい。四時間目、警戒警報になり砲台の方へ山下上曹は行かねばならないので各自自習をしていたら、花井教員が来て話 せ せて下さる。時、所（場所）、位（身分）についての非用の事を話して下さい。今日の実習、中五期の小林君と倉庫へいって、少し〇の様							
演芸会		な物を箱につめて帰る。							
本日ノ善行		夜、誤 ^(誤) 楽室で演芸会あり。							
本日ノ反省		演芸会、甲板長の話。おもしろい。							
通									
信 発									
信 受									
信									
出支ノ日本									
円									
訓 戒									
もつと はりきれ									

信 発 信 受		通	本日ノ反省	本日ノ善行	特 記 実習する班 が兵器班に代る 自動車にしかれて 入院していた 稲葉死ス									
		信			総員起し十五分前やかやをたゝみ、総員起しまでのみ取。取ったのみは紙へ縦十四横十四 並べ、百匹になったら甲板事務室へもってこいと大龍寮長付がいふ。私は十六匹とらませた。 (44) 人員調べがすんで各寮五分間体操をし、それから甲板掃除に取りかゝる。出勤の時、当 直副寮長(三寮鈴木)より、お前達の集合状態は六分五十六秒かゝっている、班長は一分 もかゝらない五十九秒であるといふ。朝礼後、靴の配給せられた者は物資部へもちに行。 歴史、万葉集と国民性。物象科学、塩、酸性塩、塩基性質。数学、二元 一次連立方程式問題例をやる。武道、物をつく。食事の(お)かずはカレーライス。中 に豚肉、玉ねぎ入。中部屋を消毒に來ている。今日廠内実習中の班が兵器班に代り 第四機銃工場、第三機銃工場を見学する。帰舎し、本目一、二寮の部屋 並びに寝具を消毒し、のみ、しらみがついていないがお前達の着ている物についているか らいまから取れと二寮の中前で取る。又すんで寝具を各自五枚づゝはける。 (お)									
支出ノ日本 円														
戒 訓 熱くなつたで だらけるな														

六月

十四

日

木曜日

象 氣

晴

本日ノ実習

廠内実習 工場見学

六月十五日金曜日		象 氣 曇雨		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		朝礼、十五日で要言をろうしようする。主事先生の訓示。沖縄戦々 ^⑧ は決戦段かいに内 ^⑤ った。島民は皇軍勇士と協力して戦っている。手紙などに防諜関係の事を書くな。物理は先生が用事があつておいでにならなかったので自習。数学、連立方程式ノ復習。最後□の計算、バカにへんなどと思ったら分数になるのだった。材料、急に金属材料とはときかれたが、頭がどうかしてはっ ^⑥ らなかった。後からおもいつていみたら安いもの。食事はたこが多く入っていた。うまい。食事、めしを少し多いといいが。出勤しようと思つたら、いじ悪く小雨ふり出す。廠内へ行に傘をさしていく。傘がない人はかはい ^⑦ そうだ。廠内へいっても何もする事ないので、腰掛 ^⑨ て時間をまつ。帰校してすぐ寄宿舍に帰って、傘を誤 ^⑩ 楽室へほしにいったらいいかないと甲板係がいった。			
稲葉の香料 二〇錢					
本日ノ善行		食後、七号室六名、稲葉のおつうやをしてやる。養成所、寄宿舍から夜食と飲食物を持って来てくれる。主事先生、副舎監、学級主任、当直補助員の方がおいでになった。甲板長もこんな所では寝れにくい。			
本日ノ反省					
通		信 発			
信		信 受			
出支ノ日本		香料			
		円 二〇			
戒 訓		雨にねれたりして ^④ かぜを引くな			

信 発			通		本日ノ反省		本日ノ善行		特 記		六月 十六 日 土 曜 日		象 気		本日ノ実習							
信 受 河合厚彰宏君			信						靈安所で寝ても少しも寝れない。三時・・・五時などと時計を見ながら、いまは寄宿舎では総員起しだと色々な話をして、六時半頃こうたいが来た。寄宿舎に帰り食事をすませ、総員朝礼は甲板でする。外はぬれているから。皆んな出勤してから食器を洗ひ、寝具をひいて寝る。六号室の四名や小松、佐久間など、寝れないといって洗濯をしたりして寝なかった。私はよく寝れた。三学級全員稲葉の告別式で正服をきていく。昼食をすませ、六名の外廠内実習に行。僕達は又寝る。皆んなが帰って来て話に聞くと、明日、偶数班は外出、たゞし電車に乗ってはいかない。奇数班の私達は次の休だそう。別課は騎馬戦をやる。私達の組は優秀である。		◎ 教育 明治天皇御製		正しくもおいしげらせよ教草男女の		みちをわかちて				晴		部屋で休息(稲葉の夜のおつうやで)	
出支ノ日本																						
			円																			
戒 訓																						
御製を 実行																						

六月十七日曜日			象気		本日ノ実習	
特記		本日遇数班が外出だて、人員調べ後食卓番開ケ。昨日朝、食卓番をか は ^⑤ つてもらったので、汁をもちに行。食事後、偶数班は正服を着て外出用 意をしている。七時半まで約一時間あるので洗濯する。作業服、パンツ、 シャツを洗ふ。総員二寮号令台前へ整列し、外出者は副舎監より注 意をうけ、七時半出発。奇数班は大掃除後釘拾ひ。汽 ^⑥ 中かん場の裏で 拾ふ。十時に終了して、約一時間休息後食事後身回整理。外筏甲板 がごま塩ないかと聞いたので少し上げる。二時半頃、八号室の四・五名が帰ってくる。 なにも高くて買へないといっている。外出した班で時間になってもまだ帰舎しない 者、班全員各班長にびんたつられている。別課、寮長のもと軍歌 練習。又 此 外出した人達に絵はがきを買ってもらふ。				
偶数班 外出 奇数班 大掃除 又見廻り 整理						
本日ノ善行		身の回りの整理は、私達に取っては一番外出の次に楽しいものだ。				
本日ノ反省		本日の休みで体のつかれたのを取りさり、明日からはりきった一日を送れ。				
通		信				
信発		信受				
出支ノ日本		絵はがき				
		円				
		一〇				
戒訓		何事も 敏捷に				

六月十八日			月曜日			象 氣			曇			本日ノ実習		
特 記			朝一時頃空襲警報発令。総員たいひ。たいひする時、東の大空方を見たら赤く夕焼のようになっていゝ。爆弾でやられたのであらう。長くたいひをしていたので、副寮長（当直）が本日の総員起しは五時半といった。人員調べ後すぐ食卓番は出発する。今日から奇数学級午前実習。兵器班の班長のさしずで帳簿をうつす。帰校する時、正門や二工員寄舎、養成所、正門に弔旗が立っていた。なんだかはからない。食事の時、金澤君が少しはけてくれた。すまないよ。教練、伏打膝打逆打立打の復習、少しやって休息。山下上曹はとてもよい。授業終り十分前頃にはすんでしまふ。物理、線膨張係数、体膨張係数、数学幾何、羽田野教員より楕円形の別な画きかたをおそはる。別課に練兵場の方へ行。釘を四本あてひろう。夕食時、かずかんらんの中に魚が入っている。うまい。今のかずはかんらんばかり。											
本日ノ善行														
本日ノ反省														
通			信											
信 受			信											
信 発			松崎和夫 原田太 両君 河合彰宏											
出支ノ日本			円											
戒 訓			食事 よくかんで											

信 発 信 受 森田泰彦君 出支ノ日本 円 戒 訓 どうさはすべて かけ足でせよ		通 信		六月 十九日 火曜日	象 氣 晴	本日ノ実習 廠内実習
特 記 養成所で ゲートルの 配給 先の配給より ものはよい 値段もよい 値は三円九十銭 六月分給料か ら出そうよ		本日ノ反省 今日時間があにやふにやで、副寮長の号笛、総員起しには人員調べに出る用意をしていた。朝食とてもすけない。☾レクライ。主事先生の話、先日偶数班第一回の外出を許したが少しの事故もなく帰った。此の分なら外泊も許せれるだらう。実習に行。昨日うついた帳簿の裏へ班長さんがマンガでも何でもよいから白い所へ車絵を書いてくれといったので、紙へ穴をあける機械と電動車、兵器班長を書いてやる。帰校して体操用意したら、警戒になったので取止め。昼食、朝とくらべてもんだいなし。⊖くらい。授業、数学連立方程式の例3問題2ツ。先生がむつかしいで無理、うつせるだけうつせといふ。物理(化学)、分子値、元素結合手問題をやる。面白い。修公、交友。武道、きり込隊十名出て一回練習。指導員より不成巧といはれる。先日名前をいかへたゲートル帽子をいる者の名前の者は教室で品物をはたされた。ゲートルは三十名中二十四名しかはたされないの、くちをする。我あたれり。帰舎し甲板から硯箱をかりて来てありとあらゆる物へ名前を書く。夕食時、もろこしは入っていない。たゞ普通のめしの中に大豆が入っていただけ。初めて白いめしを見る。食後別課、軍歌練習、ドッチボール。めずらしく巡検あり。			本日ノ善術	

六月二十日水曜日			象気 曇晴		本日ノ実習 廠内実習	
特記 二十四時頃、空襲警報になり総員起し。総員たいひの時、豊橋上空は真赤である。防空壕の入口で見ていたら、Bのやらうし ^(機夷) うい弾を多百数おとしやがる。しだれ柳のとうりだ。落ちた付近は赤煙りが上る。すごい空襲である。私は始めて空襲の有様を見た。し ^(機夷) うい弾の落る様子、新聞写真の通りである。三時半頃解除になる。こんな風であるので、総員起しは五時四十五分である。朝礼、主事先生の話、本日の空襲について、又先日山梨の者百名ほど入って来た事。実習にいつても話といふ話は空襲(豊橋の様子)である。警報が二度出る。帰校し、食卓番で急ぐ。昼後整備作業だが、私と三井君は山内先生の所で絵をかくのが、工務係へ来た皆んなと二時間休、後絵を書くこともなく当直室でぼさーとしていたら事務の景山君と仲良くなり、白線をもったり、お前はどこだと聞たりして時をます。正門哨所へ行たらなんしよで面会に来た福江の人達ににぎりめしを三ツ、梅岡君の母に大豆を少しもらった。腹もちはいい。夕食、私達が苦勞して取った空豆。一生懸命やったかいがあつてうまい。本日の点呼二〇、〇〇(八時)						
本日ノ善行						
本日ノ反省						
二十時は甲板ふきもつらいなあ 和夫						
通		信				
信 発		信 受				
出支ノ日本		食費				
		十四円				
		二十六銭				
戒 訓						

信 発 信 受		通		信		出支ノ日本 円		戒 訓 一、敬礼 一、返事 一、言葉遣ヒ 一、不言実行 右ヲ良ク反省スベシ	
		本日ノ反省	本日ノ善行	特 記 実習する班が機械班に代る 二十時より三十分 夜間 防空訓練					
								六月 二十一日 木曜日 象 氣 曇	
								本日ノ実習 廠内実習	
								甲板掃除は五、六班、養成所の掃除に行。朝食の^{（お）}かず、おぼろこぶうまかった。 食後、空襲になつても私物をいつでももち出せる様に用意をする。本日より 実習する班が機械班に代る。向ふの人のさしづで先輩である見習工の人と或 品物を豊川倉庫（廠外）豊川病院の近くへはこぶ。なか／＼重い。帰りに昨 日焼夷弾がおちた所を遠望する。豊川警察署の或駐在所に落ちた焼夷弾 が数箇立てかけてあつた。昼食はせきはん。うまい。いまはなんでもうまい。まづいもの はない。授業、歴史、万葉集。四ツの時期に分け、二期、柿本人磨呂、高市黒人の 歌を書く。化学、空襲の様子の話と分子式、化学方程式。数学、因数分解。 武道、銃剣術つけの練習。上中下下に分け、上の者、氏名を書いて指導員へもつて いく。私は^{（社）}。帰舎し別課、釘ひろい。食事、本日叶なし。	

六月 二十二 日 金曜日			象 氣 曇			本日ノ実習 廠内実習 機銃部各工場機械一覽表を別紙にうつす		
特 記 空襲警報 総員起し 五時半 本日警戒た び／＼ある 和傘の配給 私にはこうもりが あるから此の次ぎ			プー、プーときみの悪にサイレンがなり出した。空襲警報である。総員起し。武装をして通路に整列。又私物は全部甲板へ出す。時期せまって、総員たいひ。定められた防空壕へ出発・・・たつとたいひもとへで、部屋に入ったら、又総員たいひ。又防空壕へ走る。今日の空襲は豊川付近でないらしい。火の手もみへない。本日の総員起し、五時半ときまる。朝礼、神谷教官、空襲についての注意。実習、各工場の機械一覽表を別紙に書きうつす。途中警戒、空襲になったのでとり止め。午后授業、物理、気体の膨張。すんで中かさの配給。私にはこうもりがあるから此の次ぎ。数学、因数分解、平方式の始めの方。材料は先生がおいでにならないので静かに自習。又いねむりをした。私は少し数学の復習をする。帰りにどうもものたりん物があると思ったら、竹帽を養成所へはすれて来てしまった。後もちに行。					
本日ノ善行								
本日ノ反省								
通			信					
信 発			信 受					
出支ノ日本			円					
戒 訓			親しい中にも 礼儀あり					

六月 二十三日 土曜日			象 氣 曇後雨			本日ノ実習 廠内実習 昨日と同じ		
特 記 明治天皇 御製 交友 もろともに助けかは してむつひ合ふ 友ぞ世に立つ 力なるへき 配給品 シャツ 六円			よくくたぶれるせいか此頃は良く寝れる。総員起し十五分前も知らないぐら い。朝のきもちの良い。人員調べ後各寮五分間体操をする。二寮は二寮号 令台前で寮長の指揮。甲板掃除、大外の掃除に出る。掃除中福宝 として裏に三河国一宮砥鹿神社と書いたのをすひるふ。廠内実習、昨日と同じ 次きをする。二度も警戒になる。帰校後体操用意をしたら警戒になり、体 操取り止め。昼食事、魚の大きいをつく。毎日あんなおかずならよいがな。一。 授業、化学、分子の基、酸工業。工業要項。先生が自習しておれといったので、数 学の因数分解を練習する。皆んな自習しないで寝た者へ、足立君がたゝいて回る。面白い。び っくりしておきる、口へよどがついて。修公、交友の終りの方と四課、信実と軽信、信とい う事について。数学、又もや先生がおいでないので各自が自習。帰舎し、別科は雨が降るので 身の回りの整理袋を作る。夕食事、近頃魚がつく。とてもうまい。こうゆうものは 家の方ではめったに食へない。シャツの配給。灯下管制を見に行つて帰つて来たら、 学友の松崎君から返事の手紙がついていた。			本日ノ善行 本日ノ反省		
通 信			出支ノ日本 シャツ 六円 〇〇			戒 訓 悪ヲ去リ 善ヲ進ム		
信 発 信 受 松崎和夫君								

六月二十四日曜日			気象 雨			本日ノ実習 廠内実習		
特記			昨日からひきつづいて雨が降っている。人員調べも甲板ですませ甲板掃除。今までは、階段掃除であったが、今度はまっとうしである。本日食卓番。雨の降る中を急いで食堂に行。今日の授業は土曜日の授業をすると通知ある。出勤の時、雨が降っているので皆んな先日配給の傘を持ていく。廠内実習、昨日書き上げた書類の機械の台数を計算し、後女の人が紙をくれて帳面を作る。帰校。養成所正門の所まできたら、又うん悪く下駄を両方切れる。雨の降る日の下駄はうんが悪い。昼食は多かった。外の班とくらべると。さっそく下駄の尾を作る。出勤。化学、鉛室法の原理、接触法の原理。工学要項は自習。又寝る。第三時、修公、先生がおいでないので自習。数学、幾何、各自自習。今日は一時間授業やった分、三時間は自習。三時間は級長に希望をいふ。					
本日ノ反省			本日ノ善行			不寝番 四直(十二一二)		
通			信			出支ノ日本		
信 発			信 受			靴下 下駄尾 計		
						一円 〇〇 五五 五五		
戒訓			文ヲ修メ 武ヲ練レ					

六月二十五日 月曜日		象 氣 晴	
本日ノ実習 廠内実習（豊川倉庫へ行）		特 記 甲班昼前授業と代る教練 大すきな手旗 原画 文字（ル） まで 甲板係付になる	
通 信 発 森田周一郎様		信 受	
出支ノ日本		円	
戒 訓		本日ノ反省	
本日ノ善行		豊川付近へこなくて良かった。	
向ふを二時半に出て班へ一度もどり帰校。明日の給料をむらふひかへ書をは		たされる。帰舎し甲板係から、森田お前、甲板係付になれといはれ、なる。	
又私達が生を出して作ったじゃがいも、少づつ食ふはけて。夜の空襲報、		豊川付近へこなくて良かった。	

六月二十六日 火曜日			象 氣 晴曇		本日ノ実習 演芸会のつ合上、取止	
特 記		昨日の夜から空襲報になったので、総員起し五時半。点呼後、甲板係の食事をもちに行。食後、甲板係室で少し掃除をしすぐ出勤。朝礼に整列したら渡边上曹が三学級は整備作業だといったので、五班は今日哨所へ立つのである。私は当直室にいたら、君は山内先生の所で書をかくのだといったのでこうたいする。絵を書いていたら警戒警報並びに空襲報となった。総員たいひ、防空壕の中にいても敵のB29が即去中、味方の砲がなりだす。自分達の私物と毛風 （毛） を一枚壕の近くに持参。解除になり養成所朝礼台前整列。主事先生より壕の中にいるたいどがかんまんであると注意された。食後、校庭で工員、体重中 （中） を計り、後十女子へ演芸会観らん。高頼實の実演。帰校して校庭において給料をわけられた。夕食事普通より遅れる。給料はたし （し） の関係乗上である。点呼後、きち用品の氏名が書いてあるのと出血棒のついてあるものを検査。悪かった者は班長から注意を受けられている。				
本日ノ善行		演芸会、高頼のオッサンの姿面白いの手品、不しぎだ。時計の手品も不しぎ。				
本日ノ反省						
通		ゲートル				
信 受		三 円				
信 発		九〇				
出支ノ日本		ゲートル				
戒 訓		敢斗精神				

信 発		通	本日ノ反省	本日ノ善行	学級主任に 日誌を持参	特 記	六月 二十七日 水曜日	象 気 曇	本日ノ実習 廠内実習（書類を別紙にうつす）
信 受							信		
出支ノ日本									
戒 訓									
情□ 整頓									

六月二十八日 木曜日		象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習 西豊川まで材木をはこびけり	
特 記		点呼、花井副舎監より、服装の注意及就寝後通路をとばない事。夜空襲 ですいみんな不そくである。他人に迷惑になる、とくに階上は注意せよ。甲板掃除。 朝食もすませもう出勤をまつばかり。朝礼、主事先生より、沖縄戦況○ ○日をもって総員総とつ撃、よく島民協力一致した。これから空襲も大 大ある。皆なもそのつもりでやれ。授業、歴史、小倉教官がみえないので自習。 度々教務の方がまは ^む ってくる。森下が机上で鉛筆のけ ^前 つていたら『コラー。』としかった。び つくりしたよ。物理、化学硫酸の検査法。数学、平方ノ差、例間 ^間 をする。 武道、木銃の先のとがったやつて すんで朝食事。甲板班長の食器を洗に行。今日実習する班が機器班に代る。班 長は野中工事。器具整理所で箱をの板をうちつける。後先生、中野、私三名と外四名で西 豊川の木材をはこ ^み びに行。電動車で帰校したのが四時半。今日汁粉の 配給。工場の方でもあった。うまい。一杯十銭。点呼の時、副寮長よりまだ 物灌場へ夜になってもほしはなしである。そんなにしても出来なかったら此ち らでせれる様にさせてやるよといった。			
汁粉配給 一杯一〇銭					
本田ノ善術					
本田ノ反省					
通					
信 発	信 受	出支ノ日本			
		汁粉		円	一〇
		戒 訓			

信 発		通		本日ノ反省		本日ノ善行		特 記		六月 二十九 日 金 曜 日		象 氣 曇		本日ノ実習 廠内実習 女工員作業服をはこぶ	
信 受		信		目上の方方に注意やことをい(わ)はれない様にする様		本日出勤の時、当直副寮長よりお前達のどうさは非常にかんまんになった、もつとしっかりやれ。又朝礼の時、山下上曹より大外の掃除は非常にきたない、もつと進んで比ちらからやれとい(わ)はれない前に大外がきたないから掃除をやらせて下さいとたのみに来るのがほんとうだ。授業、物理、力の内の滑車、動滑車。数学、少しむつかしい。二次三項式ノ例と問をやる。問の三題やれなかったので宿題。材料、鋳物が兵器ニナル迄。実習は第二倉庫より機銃部女工員の作業服を庁舎倉庫までリヤカーで二回、電動車で一回運ぶ。作業服の良いやつは我等の正服と同じきじである。帰校して大外の掃除は草取。帰舎し別課は針ぬききぬき。後中野春治？君に針を二本もらふ。食事(お)かずは(じやがいも)じかがいもが入っている。おいしに(い)。又めしの中にのこりのごま塩を入れて食べる。又二寮階上からせきりが出たと〇〇教員よりい(わ)はれる。又点呼の時に副寮長よりもい(わ)はれた。									
出支ノ日本		円													
戒 訓		だらけるな													

信 発 信 受		通	本日ノ反省	本日ノ善行	特記	六月 三十 日 土曜日	象 氣	本日ノ実習 廠内実習
						雨		
出支ノ日本 円		夜中に空襲になったすばやく武装をし甲板係室の荷物を用意。外へ出さうと思つたら、雨が降っていたので入口においておく。情報(北條)は島半島を北上するやつばかりするとせんかいして南方洋上を退去。まもなく解除になったので就寝。又総員起しは五時半。点呼は通路でやる。すまして甲板係の食事を持ちに行。雨が降っているので行。ぬくい食事後松本甲板にもらった先頭帽を少しぬう。又朝礼も寄宿舍内でやる。私達の班長は農繁期で八日間外(通)伯。朝礼後養成所へ出発。授業、科学、塩酸の性質、用途。工場要項、海軍職員規法、海軍工務第一二章。修公、恭儉、信実、軽信、軽信。真実は水なり、精神は心の主人公。数学、幾何。実習に行ってもやる事がないので腰掛にかけたまゝでいるとなんだかねむくなる。帰校して小雨が降っていたので宿舍帰る。明日外出の見回りの整理をする。						
戒 訓								

七月一日 日曜日			象 氣		本日ノ実習	
(責任尊重の月)			象 雲		外出	
特 記			晴れの外出日。人員調査後食卓番は整列し甲板掃除もかんたんにすませ食事につく。食事後外出者外出用意。うれしや。正服に着かへ配給の短靴をはく。号令台の前で副舎監より色々な注意をされ、勇んで豊川の宮地様で自転車をかりに行。だが自転車はそかいしてしまったからなといった。た□かった。家へ行こうと思ったのが行けないのだ。力が落ちた。も家は帰れないので豊川の市内で遊ぶ。十一時半頃食事をすませ、或食堂で(じやがいも)を三円買い、絵はがきを一冊四十五銭、じやがいもは腹一ぱいになる。又空襲になったりして敵から落したセンデンビラーを見た。少さいが日本の新聞のとうり。雨が降たりしたのもう佐久間君、野口君と三人で帰舎途中、二工員の所でアイスクリームヲ一杯買った。つめたくてうまかった。帰舎したのが四時十分であつた。外出で家に帰れなかつたのが残念だ。			
本日ノ反省						
本日ノ善行						
通			晴れの外出日。人員調査後食卓番は整列し甲板掃除もかんたんにすませ食事につく。食事後外出者外出用意。うれしや。正服に着かへ配給の短靴をはく。号令台の前で副舎監より色々な注意をされ、勇んで豊川の宮地様で自転車をかりに行。だが自転車はそかいしてしまったからなといった。た□かった。家へ行こうと思ったのが行けないのだ。力が落ちた。も家は帰れないので豊川の市内で遊ぶ。十一時半頃食事をすませ、或食堂で(じやがいも)を三円買い、絵はがきを一冊四十五銭、じやがいもは腹一ぱいになる。又空襲になったりして敵から落したセンデンビラーを見た。少さいが日本の新聞のとうり。雨が降たりしたのもう佐久間君、野口君と三人で帰舎途中、二工員の所でアイスクリームヲ一杯買った。つめたくてうまかった。帰舎したのが四時十分であつた。外出で家に帰れなかつたのが残念だ。			
信 発			信 受			
出支ノ日本			外 出 金			
三 円			八 十 五			
戒 訓			ぼう飲ぼう食して 体をこはすな			

七月 二 日 月 曜日		象 氣		本日ノ実習	
		雨曇		廠内実習	
特 記		今日はどうゆうはけかしらないが、総員起床は五時半であつた。雨が降っているの 点呼は通路ですませたぐちに食卓番は出発した。今日より昼前廠 内実習であるから、寄宿舍で朝礼をすませてたぐちに出発。実習に行つても 男の人達は全部そかいの方へ行つたそうだでいたいから。又先月の様に腰 掛けて時間をまつ。皆んなと昨日の外出の話やう。又センデンビラーの話 やら色々な話をした。帰校して報告。雨が降っているので寄宿舍に帰る。 食事おかずのうまい事。大根の丸ぼしをきつてとてもうまい。教練、渡辺上 曹がたまには手旗をやるといつて手旗の訓練。原画、イロハ、五十音。それから上槽 がかいたのを読んで、読んだ者は前へ出た。私の読んだのは「僕ハ見習生徒デス」と いふのだ。後まだ読めない者はかけあし罰直であらう。物理、輪軸、力の合成分解。 幾何は三角形、合同を教はる。朝礼台前を渡辺上曹が総員数をしらべた。 又人事の方がより見習工員名簿をはたされた。夕食の ^{（お）} かず、にしんと大豆のにたのうまい。			
本日ノ反省					
本日ノ善行					
通		信			
信 発		信 受			
出支ノ日本		円			
戒 訓					

七月三日 火曜日		象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		夜警戒になりラジオより情報が多数入った。大くは島半島北上ばかり、此らへはこなくてよかった。本日の総員起しはカクセーキでは五時半と知らせて下さったが又へんこうとみへて五時になる。青実習に行。何もする事はない。帰る時刻になつたら班長が一銃までガス燈をもちにいつてくれといったので取りに行。帰校し体操もやらず朝たのまれた松本甲板のズボン、シャツヲ洗ふ。大至急洗ふ。よくあかを取りさる。昼食後十二時十分より工廠長訓辞あり。寄宿舎通路、廠内で牛馬車又電動車運転士□□にやたらに乘らない事。もしみつかったら其の場で罰をあたへる。又道路を歩くのをもつと早くせよ。授業、数学、二次三項式ノ異符号問四ツ。化学、塩酸の製法をあはててアンモニアノ製法をやる。又あとする。修公は自習。武道は練兵場で十三学級と方復 (制知カ) 前をしてとつげきしてつく。帰舎し甲板係のもと甲板をホースで洗ふ、自にきれいになる。今日此頃めづらしく巡検あり。			
本日ノ反省		もつと一生懸命勉強すること			
本日ノ善行					
通 信		信 受			
信 発 森田ゆき様		出支ノ日本			
		円			
戒 訓		むだ話 するな			

信 発		信 受		出支ノ日本		円		戒 訓		正義の道に進め	
通		信		日本		円		訓			
本日ノ反省		本日ノ善行		象 氣		晴後曇		本日ノ実習		廠内実習 整理場から電動車で工具をそくせんまで運ぶ	
特 記											

七月五日		木曜日		象 氣		晴		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		本日より実習する班が第一材料班に代る。一寮の池田班長がいる班だ。班長は外山工手とは ^⑤ かった。机も梯掛がなかったので、池田班長が防空壕あるからもって来いといったのでもちに行。又池田班長が帳面と鉛筆をもつて来て下さる。係官が明日から材料班とはどう ^① すうものかといふ事を ^② をしへるため座学を一、二時間応接室でするといった。明日から帳面をもつて行こう。食事 ^③ かずは肉うまい。又豆が糖でにたの又うまい。体操は警戒であつたので取止であつたので、時間はあるから洗濯していたら、家から手紙が来たと今田君がいったのでうけとったら、泰彦君から七月一日の外出で家にこなかった、家では大部まっていたらしい。家に対してすまないののでさつそく手紙を出す。今日は整備作業。三井君と絵を書く。別課に私物検査、名前が書いてないものはとり上げられた。私はなにも取上げられなかった。又飲食物を ^④ 大きく持参している者も多く、甲板係室で ^⑥ ま ^⑦ とめて ^⑧ 含生 ^⑨ には ^⑩ けた。							
別課 私物検査									
本日ノ善行									
本日ノ反省									
通		信							
信 発 森田泰彦君		信 受 森田泰彦君							
出支ノ日本		円							
戒 訓		道路上に タンをはくな							

七月		六日		金曜日		象気		晴		本日ノ実習	
朝礼前、山下上曹より注意あり。一、道路上にたんを出すな。二、集合の時べちやく話をしていたら外へつまみ出す。養成所へ入る時通門を利用せづ堂々と正門を利用して入ってこい。実習は班長より、材料班は何をしているかを材料班はせる所がないので二外をかりて話しして下さる。又明日係官が私達に教育して下さると班長がいった。帰校し朝、今泉、後藤甲板係よりたのまれた洗濯物を洗ふ。めしの中にしいたけが入っていた。とてもだしが出てうまい。授業、物理、回車の移動。数学、平方式ヲ作ルコト、例ト問ヲ五題スル。材料ハ先生がいないので指導員のもと道路の草取。帰舎、外筏班長は体のぐあい悪く一号室で休んでいられる。別課は一度号令台前へ整列したが、ドッチボールをやり出したので 杵本		本日ノ善行		本日ノ反省		特記		通		信	
信発		信受		出支ノ日本		円		訓		戒	
つねに体は		清潔に									

七月		七日		土曜日		象 氣		晴		本日ノ実習		廠内実習	
特 記		午後、廠内医務部へ血液を調べに行 私はA型なり											
通		朝礼の時、小雨が降って来たが今は良い天気になった。実習に行。班長にあいさつをし、我等の先輩はお早ようと。池田班長が紙をもつて来て帳面を作れ と云って紙を下さった。又係官の方がこなかったたので各自が自習。畢食帰校。 めづらしく体操をする。二工員の所まで来たたら警戒報になり、体操をやる五分前頃解除になった。体操も元氣一杯ですませ昼食に向ふ。昼食のかすはあ せと共に働いて作ったじがいもに豚肉、玉ねぎ。実にう中まかった。十二時十分頃寄 宿舎事務室の方より、一、三学級は血液をしらべるから号令台前整例ト、マイ クを通じて話あったので集合。一度教室に入り用紙に氏名を書いて廠内医務部 にむかふ。約一時間廠内にいた。私は学校で計った通りA型である。帰校したのが十 四時半。											
本日ノ善行													
本日ノ反省													
信 発													
信 受													
出支ノ日本													
円													
戒 訓		明朗□斗											

七月 八 日 日曜日			象 氣 晴		本日ノ実習 廠内実習
特 記					
大詔奉戴日					
授業金曜日 の科業する 夕食代用食 八時―八時半 夜間訓練					
国旗の絵					
寄宿舎 警戒当番 (六直)					
主事よりしかられる					
本日ノ善行					
本日ノ反省					
点呼の時、花井当直副舎監より朝の集合状態は非常によいとほめられた。 又三寮から何かをぬすむ者が出た、はん人はは ^⑤ かつて注意をあたへたが、今後お 前達はそんな事はしない様。又長濱舎監より副舎監より話ありたる様に又 点呼に二度出た。皆と一諸 ^(緒) におき団体生活になれ様と努力している。 大詔奉戴日である。正門には国旗がかゝげられている。詔書奉戴式をすま かして実習 ^④ に向ふ。式 ^③ をやったので作業係についたのが八時十分前であつた。 又一寮小須田班長(設計)が帳面をもつて来てくれる。池田班長がは ^⑤ たされた哨所の 所まで来たら、夕食の代用食を一工員がはこんでいた。授業、物理、先生がいなので教 務の方から一時間作業するから出よといった。そしたら三井、平林の「ちや。」った言葉を聞いた教 務の方が怒ってかけ足、方復 ^(前) 前。後主事先生よりものすごい注意され、三学級は今度の見 習工のくづといは ^⑤ れてしまった。数学、一元二次方程式。材料は先生がい ^⑤ ないから自習。 夕食は代用食。うまい。一人三ツ。八時―半まで夜間訓練。神谷副舎監よ りどうさは実によいとほめられた。寄宿舎警戒当番(六直)					
通		信			
信 発		信 受			
出支ノ日本		円			
戒 訓		歩行の速度を早くせよ			

七月		九日		月曜日		象気		晴		本日ノ実習		廠内実習	
特記		教練は一番楽しい。今日は散開の練習。私は竿方散開より右に散って突撃をする。分隊下士は久野。ふせの時、穴を利用したので今の分隊下士は良^(b)いといはれた。又私も穴を利用したので森田はよい□はれる。此れからの教練は頭をつかふから陸戦術教科書をよく読んでおく様にとさ。銃をして休む。又養成所のほうすい長が車をひいて通つたので、三学級めしが少いので教練やれな^(b)いも□てたしでたのむと山下上曹ではをゆう。いつも三学級山下上曹ほめるな。昨日は主事先生より三学級はくずといはれた^(b)が、今日は一番良いと山下上曹よりいはれた^(b)。 物理、物ノ座り、運動法則ノ其一。幾何、三角形合同(≡)をする。昼食の中にサケ。かづは^(お)じやがいもの^(に)にたの。うまかった。実習に行。寄宿舎正門を出たら空襲になり総員たいひになったので、又寄宿舎の防空壕にとびこむ。実習に行。池田班長と足立君と三人で鑄造、鍛錬を見学に行。後そく線へ材料班と階上の見習工出身全員材料を格車につみこむ。就寝後(十時半頃空襲、後総員たいひ。甲板係の荷物をはこぶ。夜中おきていたので体がひへて寒^(さ)い。三時頃解除。朝の総員起し五時半。											
本日ノ反省													
本日ノ善行													
通信													
信發		森田周一郎様											
信受		信											
出支ノ日本		円											
戒訓		きび／＼とした たいどをとれ											

七月十日		火曜日		象気		晴		本日ノ実習		本日ノ実習	
特記		総員起し五時半。たぐちに食卓番中ひらけ、他の者は人員調べに出る。出勤前、夜勤あけの班長のもとに甲板掃除すんで出勤。授業、代数、二次方程式、平方式、なか／＼むつかしい。もっと努力して勉強に励むように心掛けよ。物象化学、炭酸ソーダ、苛性ソーダ、教科書には出ていない様だ。修公、又ねむくなるぞ。敬神宗祖をやり忠君愛国の始めをやリかかったら授業終った。武道は銃架のおいてある方で指導員の方がつれていって下さって休む。昼食後、松本班長に朝たのまれたゲートルを中中洗ふ。部屋に入ったら班長さんが下さったといって空まめが少し机の中に入っていた。実習、又池田班長と足立君と三人で鑄造工場へ何かの帳簿をうつしに行。見学していたら火のかたまりがあのおうごくものにつられて私達は大ははてににげた。帰舎し別課をしようとしたら、少しつかれているから別課はやめよと副寮長がいった。又他ノ者達は各寮へつなぐ。巡検路を作っている。又今日の就寝は八時。									
本日ノ善行											
本日ノ反省											
通		信									
信発		信受									
出支ノ日本		円									
戒訓		努力									

信 発 信 受 出支ノ日本 円 戒 訓 迅速		通 信		本日ノ反省 本日ノ善行		特 記 夕食時 には汁粉 つく うまいく		七月 十一 日 水曜日	象 気 雨	本日ノ実習 廠内実習
		今日の総員起し五時半と。少し雨が降っている様であるから朝礼点呼は通路ですませる。今日休業の班長もいる。松本班長は福井へ疎開するので最後の外泊で家へ帰る。又寮長、副寮長も休業で外出するそうであるので、にぎりを作る（階上の□□）朝礼は寄宿舎ですまし各自養成所出発。教練は雨が降っていたので陸戦術教科書をする。伝令及斥候を主にする。物理、運動ノ第二法則。雨は早くやむと良いがなか／＼やみそうないな。数学、幾何、平行線。実習雨が降る。帳面をもつていって自習をする。今日は鑄造へは行かなかった。今日の夕食事は汁粉があるそうだ。夕食がまちどしくてたまらない。食卓番整例^⑧うまいく大の食器に一ぱい うまいよ。先の汁粉よりものがちがふ。あまくて^{（初）}巾もちも入っていた。米で作ったのだらう。あんなにうまいのは始めてだ。巡検あり。早く就寝す。								

七月 十二 日 木曜日		象 氣 雨曇		本日ノ実習 廠内実習	
特 記		班長が当直であるから不寝番が三十分前に起しに来た。□い総員起しだのかと思った。雨が降っているので暗い。人員調べも通路でやる。出勤整列は時間が長いのでよい。雨の降る日には寄宿舎でやるのだから、 今 此頃いそがしいので日誌もろくに書けない。養成所教室で書く日が多い。歴史、万葉集ノ三期四期と平安朝時代における外来文化ノ醇化。最後に来週の今日皆ながどんなにはかつたか試験する。そのつもりで化学、電気分解、電離。数学、高二で習った公式、 $bx+cx=0$ といふ様な公式。高二の時も今後必要だからおぼへておけといったのがいまだ頭に浮んで来る。式も安く出来る。武道は雨が降っているので指導員の方が悪い人間にならない様に話したり、家へ出る時なんといつて来た。父母はいつもお前達の事を思っている。実習、今日より第二材料班に代る。○○技手にあいさつし班の仕事を手伝ふ。二材の事なにをしているかという事は明日お知 ^① へるからといった。今日、誤 ^② 楽室で自習する（点呼後）。夜空襲で総員起し。十一時頃から二時頃まで。			
本日ノ反省		実 習 に 向 ふ ラ ッ パ は 勇 ま し い 和 夫			
本日ノ善術					
通 信		出支ノ日本			
信 受		汁粉			
信 発		円 十一			
		戒 訓			

信 発 信 受		通	本日ノ反省	本日ノ善行	特記 不寝番 二直 一										七月 十三日 金曜日	象 氣 曇晴	本日ノ実習 廠内実習
出支ノ日本 円			空襲があつてもなくとも起床は五時半である。昨夜起きたのでねむい。 番号台前はぐちやであるので人員調べも通路でまます。出勤前まで ほころびた先頭帽子を修理する。工廠へ来る時、母がぬってくれた通りに見て ぬう。授業、物理、打撃、衝突。落下運動でB 29の爆弾の一万米で落下速度の時 間がはかる。約四十五秒である。数学、代数。先日は公式ノ中第一ノ方だが今日は第二の方 公式である。良くおほべよう。材料は教務の方より二時間自習せよと通知あり。 四時間目は指導員の方が号令台前へ集合だといったのでなんだと思つていたら、 先のとがった木銃をもつて戸澤指導員の方が銃架のおいてある西側で、 敵が上陸して来る様になつたらお前達が一番となつて働くのであるからと色々な 話をされる。実習、一倉庫へ釘をもちに行つたら防火訓練していたのでくれない。 又、南豊川北東門へ丸田をはこびに行。庁舎までかつぐ。帰舎。松本甲板家から帰つ ておいでになる。不寝番一直八時二十分より十時まで、一時間四十分をする。														
戒 訓																	

信 発 信 受		通 信	本日ノ反省	本日ノ善行	特 記 七月八日の日 主事先生より しかられた話を 総員の前で主事 放送										
			総員起し十五分前と当直班長がいった。ねむくてしかたなかった。団体生活と 思い飛起きかやをすばやくたたみ五分前をまつ。出勤の時、根本当直副寮長 より集合のしかたがおそい、もしいったいひ命令が出、かけ走して壕に行用意の用にふ だんから練習しておけ。」朝礼の時主事先生より注意ある。理由は三学級のことである。 七月八日の日に主事より学級全員一時間の整備作業でしかられた話。あんまり良 い感じはしない。早くよしてくれた方がよかった。今日は整備作業又三井 君と山内先生の所へいって絵又字を書く。私は小間物爆弾といふやつを書く。食 後後藤甲板の洋服を洗ふ。出勤、実習に行。来ても役長はいまいそがしいか か自習しておれという。点呼の時、明日の偶数班の外出の話と、そっせんして 仕事にあたれとしかられた。又点呼後各班長に此頃やるきなくだらけて来たと 底空飛行をやらせられてしまった。今後きをつける。												
出支ノ日本															
円															
戒 訓															

七月 十四 日 土 曜 日		象 気 晴	本日ノ実習 廠内実習 自習
---------------	--	--------------	------------------

七月十五日		星期日		象 氣		晴		本日ノ実習		身の回りの整理、作業、大掃除	
特 記		今日は偶数班の外出である。うれしそうだ。朝礼後、寄宿舎正門を勇しく出て行。私達は九時半まで各部屋の大掃除。畳の下の綿ぼこりにはのみが多数。お中どけてしまった。掃除終了後、一、二、三寮は道路の草取は十一時まで一生懸命でやる。暑いので上着を取って働く。昼食後は身の回りの整理。毛のゲートルを洗っていたら警戒報が発令になって、部屋に帰ってリクサツク (リュックサック) をおろし整理に取りかゝったら空襲報になった。総員たいひ。情報はP 51が宇治山田付近を北上中である。機銃砲台員も配置についている。その中にPの爆音がきこへる。そしたらPのやつ一機、我等寄宿舎上空を低空でおそう。十三耗中 （見にくかった） がなり出す。やがて解除になった。総員二寮号令台前へ整列し、花井副舎監より、たいひの時は靴をはいていけ、又寝具を持参せよと注意されてしまふ。後、部屋に入り先の次の整理をする。私達の班長が銃架の工場内へ弾が内 （入） って頭後をふしようされた。今日養成講堂に映画があるから夕食早し。だが私は見に行かない。後藤が外出し家からじゃがいも持参。かき中 （見にくかった） もくれたので腹一ぱい。まげると出そうだ。映画も良くないらしい。帰りにかけあしをやったとみへて皆あせだくく。洗面所で水をかぶる。とてもきもちよい。									
偶数班外出 私達は作業 昼役 空襲警報 P 51来襲 養正講堂 映画見学 （見にくかった） あまり良くないらしい											
本日ノ善行											
本日ノ反省											
通		信									
信 発		信 受									
出支ノ日本		円									
戒 訓											

七月		十六		日		月		曜日		象 氣		晴		本日ノ実習	
										廠内実習		自習		四期のこに化学の本をかりる	
特 記		夜中に風が降 （吹） き雨が降ったので方々は水たまり。点呼は舎内でする。寮長は今日当直である。此れから二銃の第一、二分工場の者は班長出勤と一緒に出勤していく。実に偉い様である。昨日、立ったりしやんがだりして官品ズボンの縫目の所をほころびしたので、かへりそこをそゝくる。二寮号令台前は水びたゞので五寮号令台前に整列して出勤する。又、庁舎に行ても自習している。四期生の人 （達） が化学要点の研究といふ本をかしてくれたので分子式をうつす。帰舎□し体操取止め。食事後ズボンを洗つてほし玄関まで来たら、空襲になつたので洗濯物は取りよせる。総員たいひ。今日は大へん隊で来た様だ。此ちらへはき （き） なかつたが、小しP 51が来た様だ。近くの砲台がなつたよ。解除がまちどしい。警報解除になり私達奇数学級は養成講堂へ映画観見学といつて出発したが、取りやめて授業す。中化学、先生がいそがしので掛図を見てうつす。幾何は先生い （い） おいでないので自習する。めづらしい。夕食はかぼちや。別課は防空壕中 （壕） を作る。組をは （は） け各自作つてある所すいた所をへら （へ） びきようそうで作つた。													
本日ノ反省		本日ノ善行													
通		信													
信 発 森田周一郎様		信 受													
出支ノ日本		円													
戒 訓		体を清潔													

信 発			通	本日ノ反省	本日ノ善行	特記	七月	十七	日	火曜日	象 氣	雨	本日ノ実習
信 受							信	自習					
出支ノ日本													
戒 訓													

七月十八日 水曜日			象 氣			本日ノ実習		
特 記			又も空襲。総員起し。いつも起るで身がつかれる。だがたいひはしなかった。通路へおり、しけをしうとくしていた。中明朝の総員起し五時半。朝礼は寄宿舎通路ですませ、廠内実習はたづちに出発。下駄も切れそうであるから、地下足袋をはいてい も く。実習に来ても又職手係員の方が自習せよといつ中たので、机にもたれて自習する。そして四期生の伊藤君が材料班はなにをしているかを話してくれたが、なにがなにやらはからなかったよ。そして工場へ配属されてからのことや、作業は見習工出は小使の用にとりあつかはれる様な話、養成所でねむかって試験にこまった話などを聞く。もう材料班も今日で最後だ。材料班はなにしてるかさっぱり頭にしみこまない。よはったよ。もう養成所へ帰る時間になった。食後、昨日ぬれた服、ズボン、シャツをほし、外袴班長の上着を洗ふ。授業教練武装したら、執務の方が三学級は三校舎の階上で映画といった。映画は昨日見た製図、旋削の二つ。二時は野外教練。小隊疎開。養成所南方松林向ふの野原でする。物理、□射線に第二運動法則、□射線の掛図先にじゅん備室で私が書いたのだ。			空襲警報 総員起し 身がつかれる		
疎開 野外教練			石礮配給			八時―八時半 防火訓練		
本日ノ善行			本日ノ反省			通		
信 発			信 受			信		
出支ノ日本			円			戒 訓		

七月十九日 木曜日		象 気 曇		本日ノ実習 施設班に代る	
特 記		人員調べの時、山下副舎監よりほつくのはめてない者は前へ出て防空壕の中土かぶせをやらされた様である。出勤の時、根本副寮長より何度もいふ様であるが空襲総員たいひの時は全員靴をはいていく様に。今日より実習する班が施設班に代った。空襲警報 P 51 が廠上空を通過するかもしれないといったので、総員たいひ。壕の中でねむくなつたのでいねむりした。又皆と学校時代の事を話しする。たいひもとへねむくてしかたないので顔を洗ふ。時計を見たら十時。もあと二十分やつて帰る。帰校舎し後藤班長の海軍ゲートルを洗ひ又白いシャツを洗ふ。授業、歴史、試験するといったがやらなく自習。途中少佐又主事先生方の授業のしぶりを見においでのになる。物象、化学、電気説明。電気の応用又メツキのし方をおしへてくれた。武道は松林の方で休む。点呼後授業後、十女子寄宿舎へ防空壕の材料を運びに行ったが運ばずに帰る。点呼後、誤樂室で自習していたら私を甲板係がよんでいるといったのでさっそくいくと甲板係付をやめさせられた。此れからあんまり急がしい様ない事嬉しい。甲板付は温習なんか中ろくに出来ない。			
○甲板付やめ出す 六月分食費 一六円二〇銭					
本日ノ反省					
本日ノ善行					
通 信					
信 受					
信 発					
出支ノ日本					
		六月分食費			
		十六 円			
		二〇			
戒 訓					

七月二十日 金曜日 象 氣 曇 本日ノ実習 青写真を色鉛筆でこく書く			特記 敵空襲。総員起し、通路でおりしけをして待きしていた。空襲が解除になったのであんきしたら、又空襲になり総員待避。敵は方向岡崎方面を爆撃したらしく照明弾を落す。先日豊橋爆撃の様に大空は赤く染った。総員起しは五時半。人員調べ。舎監より各寮の寮長、副寮長を発表。二寮長は名倉次郎、副寮長前田春夫である。今頃始めて甲板掃除をする。なか／＼すべらない。出勤その時、鈴木当直寮長より、廠内実習態度が悪いと注意され、実習、中機銃部だけ防火訓練をする。主任より何事もかけ足です。又重用物品を持出すこと、ちゃんとしまった防空壕へ入る様志がけよ。昼体操整列したら警戒になったので取りやめ。食後空襲、総員待避 P 51 当工廠をおそう。今後油断することとは出来ない。授業、自習。四時間目は教務の方よりいねむり時間下さる。帰舎草りの配給あり。今日はすいみん不そくであるので温習時間をちゝめ、八時には就寝。夜警戒報になったが、空襲にならなかったのうれしかった。帰舎した時、□山重兵が私の所へ弟の手紙をもって来てくれる。見れば、二十九日の日に工廠内へ行、鉄橋の所までむかへに行と書いてある。まちどしい。										草中の配給 P 51 当廠をおそう 油断ならぬ		本日ノ善行 本日ノ反省		通 信 信 受 森田泰彦 出支ノ日本 草り 円 九十五 戒 訓 油断大敵		信 発	
---	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------------------	--	--	--	----------------	--

七月二十一日 土曜日		象 氣		本日ノ実習	
雨		廠内実習 紙くずを整理		自習	
特 記		総員起し十五分前の号令が響きはたる。びっくりして飛びおきる。天気は悪し。雨が降りそうである。甲板掃除ものすごくしぼられてしまった。すんで部屋に入った。のどがいたい。実習に行もだるい。雨が急に降り出すからもりのつぎが二とこ取れてしまふ。なにも良いことはなし。紙くづの袋を整理。部長が回って来るそ うだので、各班暗幕をなをしている。けつにゐぶつが出来ていたい。よはったな。 実習帰には雨が大雨になり、ズボンが少しゲートルもぬれてしまふ。養成所へ出発の時、大雨大風。とてもたまらない。教室に入ってもすごいこと、戸をしめても雨がもる。一時は自習である。二時はやっとかめで工場要項をする。三時は国史の試験。大化の改新のおこな ^⑤ はれた理由と 今 中古今和歌集のしっている所を書けの二題。四時は幾何、系の1 2 3 4 5 6をする。帰舎帽子を少しぬって防空壕の水出しに行。又砲台の水もついでに出す。温習の時、二寮のあの防空壕を良くするのを手伝に行。点呼後、又当直班長が寝 ^⑥ 就するときは復巻 ^⑦ きをまいてねること、寮長よりとうぼうをしない事、手紙を出すもつとよく勉強し様 には班長の検へつを受けること			
大雨でこまる 歴史試験					
本田ノ善術					
本日ノ反省					
通		信			
信 発 大河原大吉様		信 受			
出支ノ日本		円			
戒 訓		何事も ねんを入れて			

七月 二十二 日 日曜日			象 気			本日ノ実習 廠内実習 自習		
特 記			灯下警戒管制もといで射へい幕をあけた。昨日中とくらべものにならないぐらい 良い天気だが、号令台前は水たまりが多いので舎内で人員調べをする。今日の 掃除は養成所掃除だが、今日めづらしい部屋の食卓番だから部屋の掃除 をする。実習に出発。銃架の所まで来たら廠長とあつた。実習も何もすることなし。 たゞ時間をまつばかり。昼出勤の時、坂神地区 P 51 多数来襲している。大至急 小笠原班長の作業服を洗って号令台前整列。舎監より、また待避のじょうき ようが悪いと注意され、昨日から八月四日まで軍機風紀を乱さない様に各部長が 聾各工場を回られるから実習の態度をよくする様に。第一時間だけ星記ろく員のもとに 農園の草取。まじめでやれば何も面白い。化学、イオン間の反応、金属元素の一般 的性質。数学は二、二次連立方程式、例 2 間一をする。武道は七学級と松林 で休む。帰舎し別課は防空壕の石ひろいと花園の整理。点呼後、十四号室の 野中が各班長に精神棒をもらった。理由は人の物をぬすんだりしたので。又名札につ いて注意ある。					
本日ノ善行								
本日ノ反省								
通								
信 発								
信 受								
信								
出支ノ日本								
			円					
戒 訓								
軍機風紀を みだすな								

信 発 森田正明様 都築春二様			通 信			本日ノ反省 本日ノ善行			特 記 本日より 昼前授業 午後 実習 総員起し一五分前でも雨が降っていた。そしてなか／＼総員起しにならない。なんだと思つたら今日は五時半の起床である。朝食事とてもこはい。中にはなんばんきびが入っている。たまらない。食堂でも私達を人間と思つていない様だよ。朝礼は舍内ですます。教練、八九式重擲弾筒、擲弾筒分隊、散開種類、擲弾筒分の用法、擲弾筒分隊射撃をおそはる。物象は電池ボルタノ電池。外国人は自分で発明したものはすぐ自分ノ名前をと中る。例、□□ボルタといふ人間が電地を發明した、だからボルタノ電池といふ。幾何、平行四辺形をする。定理や系定義等。帰舎し食事前、班長の服を寮母の所へもつていつてなほしてもらはうといつたら、今は布と糸がないからもう少しまつてといつてことはられた。食後シャツがあまりくさいので洗ふ。パンツとどうも天氣が悪くなつていやな天氣になつた。			七 月 二十三日 日 月 曜 日			象 気 雨後晴			本日ノ実習 廠内実習 自習		
信 受			出支ノ日本			円			戒 訓 食事は静かに良くかんで											

七月二十四日 火曜日			象 氣 曇		本日ノ実習 一日中空襲	
特 記		朝班長出勤整列少し前警戒警報になり、班長出勤の頃空襲になった。今日は艦中さい機だらしい。そのうちに総員待避になった。朝待避になったのは始めて。壕のなかにでもねむい。ぐうぐう寝た。今日はすごい空襲だ。小型機、大型機すごい様だ。落弾した所もあるらしい。まだ工廠付近には来なかった。とても長い。いやだ。やっと空襲解除になったので急いで飛び出す。そしたら血けつ棒がない。又壕へひきかへしてたら中にあつた。外出どめにならずにすんだ。時計を見れば十二時五分前、部屋に帰つてやれぐと思つたらまた空襲が発令。もう二十四時間制爆撃の様だ。解除になったのが一時五分すぎ。食事なんか食った様がせん。工場出勤整列したら、又空襲になり総員待避。解除が四時すぎ、とてもたまらん。後夕食事まで自習する。食事中又空襲になって待避。玄関までいったら解除になった。				
本日ノ善行						
本日ノ反省						
通						
信 発						
信 受						
信						
出支ノ日本						
円						
戒 訓						

七月二十五日			水曜日			象 氣 曇			本日ノ実習 廠内実習 書類うつす		
特 記			夜中にもたび／＼警戒警報になったら空襲にならなかつて良かった。朝食の時空襲になったので、大至急食事をすませたら総員待避。空襲解除になり、五寮号令台前へ整列した。約八時頃廠内実習者は出発、座学の者は養成所へ出発。第一時は教練だったので武装したら教務の方が山下上曹の砲台の所へ行けといったので砲台へ行ったら、寄宿舍へ行けといはれ、寄宿舍についたら大きい者は防空壕へ、小さい者は寄宿舍草取後防空壕へ材料をは (運ぶ) 。空襲になり警戒になりとてもたまらない。食事は空襲発令中大至急します。実習に行っても空襲。足立君、中野君身体のごあいが悪いので病院へ行ったら空襲になったのでやれないといって帰ってくる。帰るとき十女子から□□□材料をはこぶ。足立君達は病院へ行。帰舎。たゞちに食卓番は出発。おかずは汁粉めしの中には馬鈴薯入。足立・中野両君入院。								
朝より空襲			二寮総員隔離になる。外へ出ること禁ズ。								
夕食汁粉 足立・中野 入院ス 赤痢											
本日ノ善行											
本日ノ反省											
通											
信 発											
信 受											
森田泰彦											
信											
出支ノ日本											
			円								
戒 訓											

信 発		通	本日ノ反省	本日ノ善行	隔離中	配給品 鼻紙	特記	七月二十八日 土曜日	象 氣 晴	本日ノ実習 隔離中
信 受		信								
出支ノ日本										
		円								
戒 訓										

七月二十九日曜日曜日		象氣		本日ノ実習 隔離中ナリ隔離解除ス	
特記		今日牛久保国民学校へ海軍志願兵検査に行者があるので、食事後甲板掃除。とてもしぼられ、ひたいにあせを出す。後、昨日配給の鼻紙の代金を十四銭出し、又後、今夜廠内にいる食券を買ふ。三枚（三十食分）拾六円二〇銭を甲板事務室へもっていく。三時頃寄宿舎事務室の方より二寮隔離解除と放送される。文大外が少しよごれていたので掃除。後、別課ボールなげ。階下勝ツ。又養成所の方で棒たほし。階下が一番は負けたが二番戦はびくともしない。そしたら五寮がきて二寮と棒たほしする。二寮優秀。夕食めしうまい。夜空襲警報。総員起し。あはてて寝巻のまゝ服をきてたいひしたので、のみがくつついてかゆい。浜名湖附近艦砲撃をする。			
食券買ふ （十六円二〇銭）					
本日ノ善行					
本日ノ反省					
通					
信 発					
信 受					
信					
出支ノ日本					
鼻紙		食券（九十食分）			
円		十六		十四	
戒 訓					

本日より六期見習科工員終末試験（三十日 三十一日）

信 発 森田周一郎様			通 信			本日ノ反省 本日ノ善行			特 記 今日より出勤 終末試験 修公工要の 試験			七月 三十 日 月 曜日 象 気 晴			本日ノ実習 廠内実習 馬車を木工へつれていく		
信 受			出支ノ日本			円			戒 訓 試験におちいるな			総員起しとどうじに食卓番引ケ食堂へいそぐ。荒木は海軍志願で朝早く 寄宿舎を出て行く。隔離も解除になったので出勤。朝から空襲たまらない。実習 は馬車を木工工場へつれて行。途中P 31当廠襲フ。我れは^あはててふせ、も うだめだと思ふ。敵機の急行下^{降下}すごいかた翼から白煙をふき我は死んだと 思ったがよかった。又ふたたびもそんな事あり。木工へ馬車をおいて、すぐ庁舎 に帰。帰校は中^中かけ歩をもつてする。食事後二時半まで待避。修公ノ試験、 工要ノ試験、材料の試験がある予定であったが、待避で時間がつぶれた。					

七月三十一日 火曜日		象 氣		本日ノ実習 廠内実習 貨車	
特 記		朝方三時半空襲警報。部屋にてたいきすると解除になったので、そのまゝ就寝。ラッパの音でびっくりして飛起きる。廠内実習、足がいたくてびっこをしいて行。廠内でもそく ^(側線) せんの貨車イロハワムノ字を数字でよむことをいたくら一等工員にしへてもらふ。警戒に入ったが空襲にならずにすぐ解除になる。帰校。始 ^(初) めてのめづらしい体操をする。昼から試験、材料、数学、物象一、二。		終末試験 材料 数学 物象	
下駄鼻尾配給 二そくあて 九〇銭		今日は別課は針ひろい。各班ごときよう ^(競争) そう。一人四本。五班は四番である。優秀。夕食後、二寮号令台前で軍歌練習。海行かばすんで二寮だけ工廠歌を歌ひ、部屋に入る。そしたら警戒警報になり、ゲートルを巻いたら甲板掃除。本日巡検無し。		本日ノ善行 本日ノ反省	
通		信		出支ノ日本	
信 発	信 受	円		戒 訓	
頑張レ もう一いき					

八月一日			水曜日			象 氣			晴			本日ノ実習 廠内実習		
特 記			点呼。舎監より、健康をするには精神力をもとと話して下さる。 実習各班は全部まはったので那須職手に聞きに行ったら、長谷川書記がいな いからあそこで休んでおれといったので休む。海兵団から帰って来た三期の 人が作業係へ帰って来た。行く班がない。そしたら空襲になる。十時〇分にやめ て帰校す。食事前、家と平尾さんの手紙をかき明日出す。 授業、教練、不動の姿勢、行進、ひざうちの姿勢、各五名づつ。すんで休む。物 理は乾電地、電地連結方法、並列連結、オームの法則。次に幾何は先 生がいらないから武道の試験。夕食は代用食。先のやつよりは少しやはらかく、 ふはくしてゐる。二ツ半にじゃがいもつく。点呼の時、警戒警報になった。そしたら 副舎監より二寮灯下警戒管制悪いとしかられたので、寮長より皆んなや るきなしと罰。											
執銃教練 試験			下駄の鼻尾の代金 出す											
罰直														
本日ノ善行														
本日ノ反省														
通														
信 発														
信 受														
信														
出支ノ日本														
			はなを											
			円											
			九〇											
戒 訓			精神力をもて											

八月 二 日 木曜日			象 気			本日ノ実習 廠内実習 釘中ひろい		
特 記			実習は私達が行ってもかへつてじゃまになるぐらい。又いそがしいのであいてに してはくれないので、一工具をく ^(砕いて) たいている所や二銃のこ ^(壊して) はいている所へ行つてて 釘をひろう。十時頃やめて庁舎に帰る。帰校し体操をしようとなつ ていたら警戒警報発令になり、体操は取り止め。昼食中空襲 警報になる。事務室の方より、食事のすみしだい待避せよと放送され。 た。そして少ししたつ中たら待避もとへ。束そして部屋に一度帰ったら又待 避。家から送ってくれた本を、たいくつだので壕の中で見る様もっていつてみ る。授業は整備作業。皆んなは一校舎南側のつぶれた防空 壕をほりなほしをし、私、今田、佐々木君三人は山内先生のもと薬品の名札の とれさううなの、とれては ^(も) からんのをかきなをしてはる仕事。 別課は棒たほし。私は足がいたくて、大外の掃除をする。食事後せん べいの配給。めづらしい。					
整備作業 薬品の整理 せんべいの配給 一袋二〇銭								
本日ノ善行								
本日ノ反省								
通 信								
信 受								
信 発 森田周一郎様 平尾美智子様								
出支ノ日本								

信 発 信 受 出支ノ日本 円 戒 訓			通 信		特 記									
			本日ノ反省	本日ノ善行	天野、小笠原、河合班長より罰を受ける 食卓番で食器を洗ひにいつて帰る頃になったら、糸の様な雨が降り出した。雨が降るので朝礼は寄宿舎の通路ですませ、出勤の時森田指導員より、雨が降っても降らなくてももっと集合を早くせよと注意された。 実習は一企画に代る。又各班二日こう代で代るのだ。だかかへってじゃまだので、昨日の様に食事をよそう台の所でまっていた。するとどこかの検査官が来てお前達はなんだといったので、実習に来たら一企画の人がそこにおれといった。 つかつてくれないといったら、班長にいつて釘をひろいにいけとやさしくいつてくれた。 一工具の所                                    ひろい時間になつて帰る。物象、化学、金属化合物ノ用途、数学。 点呼後灯                                    と号令かかる。七号室おそい為、天野班長に精神棒三本、班長に二本、河合班長にびんた一つもらった。これからきをつけるとしみじみ感ずるよ。そうゆう時          の家の事を思ふと泣けしてかたない。									
八 月 三 日 金 曜 日		象 気 雨後晴		本日ノ実習 廠内実習 釘ひろい										

八月 四 日 土 曜 日			象 気			本日ノ実習 廠内実習 釘ぬき					
特 記			今日も実習は二銃一具へ行つて釘ぬき。班長も私達が出て行のを嬉んでいる。かへつてじやまであるからだいたいあいてにしてはくれない。一企画の班長はもつともだ。暑い。かなづちで板をたゝき一生懸命でぬく。十時十分前頃庁舎に帰り、時間がくるまでまつ。そしたら又足立君の所へ管沼といふ女工員の方があつらへものをもつて来たので、明日家へ帰るといっておいてとたのむ。帰校しぱんつ又地下足袋を洗ふ。授業、化学、イオン化傾向「かなまある、あてにはすゞな、水銅水、銀白金ぞとけがたくなる。」山内先生作のイオン化傾向、金属の読方をはかりやすくおしへてもらふ。工場要項、戦時海軍工員規則、一章総則、二章身分、三章採用及解用。修身、忠君愛国、協同と秩序。幾何、定理、四辺形をし、平行四辺形の問題を終る。								
本日ノ善行											
本日ノ反省											
通											
信 発											
信 受											
信											
出支ノ日本											
円											
戒 訓											

八月五日 日曜日			象 氣		本日ノ実習 (大掃除) 昼前身の回りの整理 午後外出
晴					
特 記					
本日ノ反省					
本日ノ善行					
歌練習、点呼後、誤(誤)楽室中へかつげる画をかく。					
外出でつかった					
金 五五					
はし 五五					
赤水 二〇					
薬 五〇					
ほしい止 五					
一円三〇銭					
通					
信 発					
信 受					
信					
出支ノ日本					
はし 五五					
赤水 二〇					
薬 五〇					
円					
戒 訓					

ほしい
五

信 発		通	本日ノ反省	本日ノ善行	特 記	八月 六 日 月 曜 日	象 氣	本日ノ実習 釘ぬき 帰る時十一女子より材料運ぶ
						信 受	信	
出支ノ日本			神谷副舎監より、集合の能度は入廠以来良く出来る様になった。又各寮にちよい／＼頭のうごくのがある。今後注意しろ。本日より昼前授業。教練、野外訓練、伝令。堀の所で或二曹と山下上曹と面白い話をしてた。その時は休息の時間。教練は休息時間が長いでよい。すき。物理は電磁石ヲ利用した書を書く。幾何、円といふ新しい科目。日誌をおとしおきはすれてこま^⑤ったが、部屋にあつて良かった。昨日きたシヤツ靴下^⑥が黒くなつたので洗ふ。 ⑤ ⑥ 実習は一外註^⑦に代り下山五期生と一工具の方へ釘ぬきに行。中野君も他の人と一つしよ^⑧に來た。休みのときかたばんを一つ下さる。三時二十分庁舎に帰。帰校途中、十一女子の所でくぎを三十本以上ぬき、砲台につかふ材料をはこんで帰る。今日ある映画は中止になった。					
円								
戒 訓			集合はびんそくに					

八月七日火曜日						象氣 晴	
本日ノ実習 廠内実習空襲の為中止							
特記		今日人員調べの時、北原当直寮長より総員起し十五分前に服を着ている者が多い。これからそんな事があつたら、それそうとうのせいさいをくはへる。 ⁽⁴⁾ 出勤整列も北原寮長だからびんそくにやった。だが注意にはお前達の集合は何分かかつてるといはれた。 ⁽⁵⁾ 授業、数学は自習だが皆ないねむりしてる。物象化学、酸化還元、イオン化傾向ト化学□□□。□□□□所在殺虫剤、消毒剤、防腐剤。修身、秩序についてて、 ⁽⁴⁾⁽⁵⁾ 又九責任に入る。『明治天皇御製おのが身はかへりみづして人の為つくすぞ人の務めなりける。□任について。修公の途中空襲警報。授業がすんで武道にかゝろうとしたら見習工員総員待避。寄宿舎正門の所まで来たらB29四十五度一機白煙をはいている。壕のそばまで来たらひゅーと音がした。あはてて壕にもぐりこんだ。爆弾投下、ぶしん、又敵機ひゅー。何度も／＼もそんなことをくりかへす。爆弾撃□終り外を見れば、黒煙がもう／＼と工廠付近民家からでている。少したって私達は重傷者を戸板ではこぶ。昼食後、正門付近の死体を運びに行。新城警護団長と合ふ。 ⁽⁵⁾ 豊川郵便局の所であまり重かったので休む。水をのみにいったらなつかしいみね子姉さんに合った。 ⁽⁵⁾ 今市役所に收容所としていそうだ。同期生も二名松林の中においてある。後寄宿舎も收容所となり我等が就寝する所ないので、養成所教室を掃除して寝れる様にする。					
信発		通					
信受		信					
出支ノ日本							
				円			
戒訓				総員起し十五分前に服を着るな			

八月		八月		水曜日		象 氣		晴		本日ノ実習	
特 記		大詔奉載日		国旗の絵		父叔父祖母面会		本日ノ善行		本日ノ反省	
通		信 受		信		出支ノ日本		円		戒 訓	
信 発		信		出支ノ日本		円		戒 訓		戦友を助けよ	
総員起しは五時半。寝具をたゝみ五寮号令台前で人員調べ。食事後、少し休み朝礼に出る。朝から面会人が多ぜい来ている。しじのあるまで松林の中で得いき。警戒になり総員たいひ。松林の方で寝た。得避もとへで又正門付近の松林して休んでいたら、お父さんが自転車に乗って私の方に来る。丈夫で良かった、新城の者は全部ぶじだといって話していたら、食卓番整列になり食事だから一度はかれる。又後一二〇〇より面会をゆるすそうだ。食事後、正門の所まで行って見たら父、叔父、岡崎の祖母が来ていた。祖母も良かった／＼と体をたゝいて、私の丈夫な体を見て嬉しがった。したら総員五寮号令台前整列し、人員調べ後面会人をよぶ。まちどしくかけ足で父、叔父の所まで行って合ふ。祖母はみね子姉さんの所へ行ったそうだ。色々な話をしてはかれる。後祖母さんとみね子姉さん話していたのでそこへ行ったら面会やめになり、さようならとあいさつをしてはかれた。祖母も私の後を見送る。後同期生の死体を運ぶ。くさい。お父さん達と面会したら、家に帰りたくなかったよ。											

八月 九 日 木曜日			象 氣 晴		本日ノ実習 寄宿舍 死者の整理	
特 記			五寮号令台前で人員調。食事もすませ朝礼に出る。山下上曹より今日の仕事□□ を聞て、三学級は松林の中でたいき。其の中に三学級は養成所工務の所でしじを受ける。水筒 がはたつて赤塚山へ穴を掘りに行のだがやめた。そして松林で休んでいたらはい材を運びに 行とって整理。焼けたりふっとんだりした病院の所で材木を一本しよって養成所に帰 る。食卓番は食事。三学級はないといっている。わけは、朝三学級赤塚山へ行予定であ ったがいかなかったので寄宿舍事務所の方にあるのもちに行。 (お) かずはなし。うめぼし一つ。 昼後寄宿舍があいたので大掃除。階上を掃除し畳をしき、又階下もやる。 消毒も医務の方からして下さる。今日から部屋に寝るのだ。食事も早くすみ 総員寝具おまゆろせ、だんどと暗くなって来たので就寝。暑くてしかたないので はらまきをし、はだかで寝た。			
死体の整理						
本日ノ善行						
本日ノ反省						
通			信			
信 発			信 受			
出支ノ日本			円			
戒 訓						

信 発 通			本日ノ反省 本日ノ善行		特 記												八 月 十 日 金 曜 日		象 気 日		本日ノ実習 火工部戦死者行方不明者の名簿かく	
信 受			信		部屋で総員起しもなつかしい。五寮号令台前で人員調。奇数班は体操、偶数班は甲板掃除。根木寮長より、養成所において海軍体操後、智能運動をおしへてもらふ。朝礼、主事先生より、九日をもってソ連は我国と戦闘状態に入ったと話しされた。神谷教官が字のうまい者十名出よといったので出たら、火工部の技師の方より、先日空襲で戦死、行方不明者の者の名簿、工員又ハ学徒、兵隊、中実^{（中）}に多い。私は一信を書く中に学校時代同級生の山口良夫君が行方不明となって書いてある。先日四寮ははやの所で足を傷してたんかにいた。どっかの収容所にいった。昼から四時十五分まで三通同じものを書く。												円		戒 訓			
出支ノ日本																						

信 発			通	本日ノ反省	本日ノ善行	特 記	八 月	十 一 日	土 曜 日
							象 気		
信 受			信						本日ノ実習
出支ノ日本									
			円						
戒 訓									
朝礼、主事先生より、敵は又新しい哨煙^①しように弾を広島中へ始めて落したそう^②だ。地上爆発三百米ぐらいの所ではれつし、つよい光を出して熱したものが飛んで、体にあたると、あたった所だけやけどする。だから□と防空ずきんがよいと話させられた。作業員はきめられ、三学級はのこったので寄宿舎二寮号令台前へ整列。二寮の階下は寮の身の回りの整理。用水に水を入れて、舎内外の草取。食卓番がまちどしい。総員朝礼前へ整列、体操である。整列したら私は食卓番で中食堂に向ふ。トマトうまさうだ。この頃めしの中に先のように糸こんにやくみたいなものが入っている。夕食後、死体収容所の整理をし、お礼としてにぎりめしを一つ下さる。									

信 発		通	本日ノ反省	本日ノ善行	特 記	八 月	十二 日	日 曜 日	象 気	晴	本日ノ実習 死体収容所の整理
						信 受	信	出支ノ日本			
						人員調べの時、山下副舎監より、昨日の死体所整理のどうさが良い、これは訓練のけつかであると、総務部の或技師がいつていたと聞かせて下さる。今日は死体収容所の整理。とたん板を整理、壕の中に入れる。そしたら又今度は死体を穴の掘つてある所へ運ぶ。くさい。頭がいたくなってきた。後、草原の所へ火をつけてもやす。ズボンや服、ゲートルに死体の血がささについているのをつくのでくさくなる。昼食もうまくない。午后少し整理。三学級四学級は穴掘。三時には終つて総員洗濯。官品服、ズボン、ゲートルを洗ふ。五時半に食卓番整列して五時より入浴。私は頭がいたいので中やめる。どうも体がほとつてしかたなし。 夜、何度も頭をひやしに行。					

信 発			通	本日ノ反省	本日ノ善行	特 記	八 月	十三 日	月 曜 日	象 気	晴	本日ノ実習 部屋に入つて
信 受			信									
出支ノ日本												
戒 訓												

八月十五日			水曜日			象気			晴			本日ノ実習 卒業式		
特記			今日の総員起しは五時半と□□当直班長がいふ。人員調べ後、私は食事当番で食堂に出発。用意が出来なくてそうとうまたせた。食事をすませ食器を洗って帰ってくると、総員出勤で二寮前に整列し、朝礼をやりに行。朝礼後、渡辺教員より卒業式に行服中装を聞き寄宿舎に帰って用意をする。卒業式もすんだ。卒業証書をいただき、寄宿舎に帰り正服に見習工のボタンをつけボタンが出る様にする。昼から廠内電気工場へ仕事にいく。少しやり、係の人が四時になったら帰れといった。長く休む。話に聞けば、日本もほしいこと。無中じょうけんのじょうたいにあるときく。なんとなさけないことだらう。夕食も早くすませ、空襲で戦死した同期の者を送る。別課は養成所広場で騎馬戦。											
終戦			敗戦は											
本日ノ善行			卒業で嬉しく思へば敗戦なり											
本日ノ反省			和夫											
通			信											
信 発			信 受											
出支ノ日本			円											
戒訓			和夫											

八月十六日 木曜日			象 気		本日ノ実習 部屋にて休む
特 記			晴		
詔書を聞く 鈴木首相			起床しても部屋の中も黒い様だ。食事すませ養成所へ朝礼に出発。主事先生より、日本は無じようけんこうふくのじようたいに入ったといふ話を聞き、平和・・・詔書を聞き、鈴木首相の話も聞く。主事より新聞紙上で一渡边上曹が四寮、五寮の者は作業員としてはきに出、其ノ他ノ者は部屋にて休む。昼からの作業員らしいだが、昼からも作業員は出さず。ずーと部屋にいる。たいくつだったので、荒木から海軍志願兵の試験問題集をかりてうつす。		
本日ノ善行					
本日ノ反省					
通			信		
信 発			信 受		
出支ノ日本			円		
戒 訓			カラ落スナ		